

令和6年度から令和9年度使用久喜市立小学校教科用図書

研究調査結果報告等資料

— 目 次 —

○学校からの研究報告結果・選定委員会投票結果	1～2
------------------------	-----

○研究調査報告書（久喜市教科用図書選定委員会）

・国語（国語）	3～5
・国語（書写）	6～8
・社会（社会）	9～11
・社会（地図）	12～13
・算数	14～19
・理科	20～24
・生活	25～30
・音楽	31～32
・図画工作	33～34
・家庭	35～36
・体育（保健）	37～42
・外国語（英語）	43～48
・特別の教科（道徳）	49～54
・こくご（特別支援）	55
・さんすう（特別支援）	56
・せいかつ（特別支援）	57
・おんがく（特別支援）	58

学校からの研究報告結果・選定委員会投票結果（小学校）

※「選定委員会」の欄には、4人の選定委員から5点満点で採点した合計得点を記入。

※「学校結果」の欄には、学校が5点満点で採点した21校分の合計得点を記入。

※特別支援に係る教科については、学校による調査研究はなし。専門部会の調査結果をもとに4名がふさわしいと思う場合に○と記入。

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
国語 (国語)	2	東書	77	16	38	光村	100	20
	17	教出	79	15				

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
国語 (書写)	2	東書	77	16	38	光村	92	20
	17	教出	76	14				

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
社会 (社会)	2	東書	94	20	116	日文	80	16
	17	教出	80	13				

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
社会 (地図)	2	東書	82	15	46	帝国	98	20

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
算数	2	東書	97	20	17	教出	70	13
	4	大日本	72	14	61	啓林館	69	13
	11	学図	68	13	116	日文	73	16

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
理科	2	東書	83	16	17	教出	82	14
	4	大日本	72	13	26	信教		
	11	学図	85	20	61	啓林館	74	14

※26信州教育出版社（信教）は、見本本の提供が無かった為、学校からの研究報告結果及び選定委員会投票結果はありません。

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
生活	2	東書	91	15	26	信教		
	4	大日本	74	12	38	光村	81	16
	11	学図	95	20	61	啓林館	75	13
	17	教出	82	14				

※26信州教育出版社（信教）は、見本本の提供が無かった為、学校からの研究報告結果及び選定委員会投票結果はありません。

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
音楽	17	教出	81	15	27	教芸	95	20

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
図画工作	9	開隆堂	93	20	116	日文	80	14

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
家庭	2	東書	86	15	9	開隆堂	91	20

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
体育 (保健)	2	東書	84	16	207	文教社	67	12
	4	大日本	74	13	208	光文	85	17
	50	大修館	76	14	224	学研	87	20

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
外国語 (英語)	2	東書	87	20	17	教出	71	12
	9	開隆堂	82	16	38	光村	73	12
	15	三省堂	70	12	61	啓林館	66	12

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
特別の教科 (道徳)	2	東書	83	16	116	日文	72	12
	17	教出	74	13	208	光文	78	12
	38	光村	75	12	224	学研	95	20

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
こくご (特別支援)	2	東書	—	○

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
さんすう (特別支援)	17	教出	—	○

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
せいかつ (特別支援)	2	東書	—	○

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
おんがく (特別支援)	2	東書	—	○

書名 項目	新編 新しい国語	2 東書
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「言葉相談室」を各学年3回位置づけ、語彙と文法に特化して、児童がとくにつまづきやすい事項を精選して教材化を図っている。確かな国語の力の土台を作りながら、その力が自己表出の場で生かされるように工夫されている。 ○「情報のとびら」を「読むこと(説明文)」と「書くこと」の学習の間に位置づけ、「関係」「論理」「整理」「調査」の4つの観点で系統立てた教材を扱い、言葉の力の習得と活用を促す工夫がされている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」それぞれの領域で、系統的な単元を配置し、資質・能力が身につくように工夫されている。 ○「話すこと・聞くこと」では、「対話」「聞く」「話し合う」「くふうして話す①」「くふうして話す②」の5系統で目的や条件に応じて話したり聞いたりする資質・能力を育成する工夫がされている。 ○「書くこと」では、複数の資料を示して比較・分析するなどして考えをまとめさせている。「読むこと」で身につけた「言葉の力」を「書くこと」で生かせるよう関連づけ、目的や相手、文章の種類に応じた書き方が身につくよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の流れを「見通す」「取り組む」「振り返る」のシンプルな3ステップ構造で明示し、児童が主体的に言葉の力を身につけることができるよう工夫されている。 ○入門期は、入学以前の経験に寄り添い、絵から見つけたことを伝え合ったり、手遊びを楽しんだりするなどして、学びを円滑につなぐ工夫がされている。 ○伝統的な言語文化に触れたり、言葉の由来や変化について学んだりする単元「季節の言葉」「伝えたい言の葉」を系統的に設け、日本の言語文化に親しみ、その担い手として豊かに継承・発展する態度が育成されるよう工夫されている。 <p><読書に親しむ態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○読書単元「本は友達」として、図書館を使いこなすための資料や情報の探し方、多様な本に親しみ、好奇心・探究心を育めるよう教材と関連した本の紹介など本を手にとる工夫がされている。 ○読書に親しむために、読む教材に関連した本を案内文と表紙写真で紹介したり、著名人の読書体験を掲載したりするなどの工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコードを読み取ることで、学習時に参照できるコンテンツや自主学習に対応したコンテンツを閲覧、利用することができるように工夫されている。 ○特別支援教育の知見を生かした指導法「多層指導モデルMIM」の導入や色覚の多様性に配慮した誰もが認知しやすいデザインが工夫されている。 ○巻末の付録は、「学習で使う言葉」「言葉の広場」のみとシンプルで、QRコードで資料室に導くよう工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1・2年は、文節ごとに分かち書きを用い、語のまとまりを意識した位置で改行されている。 ○文学教材及び説明文教材の本文下部に、5行刻みの行数字に加え、1行ごとに行を示す「・」を付け、行を見つけたり指示したりしやすいように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1～4年は、上下巻、5・6年は年間1冊となっている。 ○単元ごとに育成する資質・能力を「言葉の力」として明確にし、螺旋的・反復的に学習を積み重ねられるよう工夫されている。 ○学習ページは、上段に学習活動の展開、下段にノート例や対話例など具体的な学びの姿を示し、学習が見渡せるように工夫されている。 ○巻頭で、国語の学習の進め方に加え、デジタルノートの使い方などICTの積極的な活用を促す工夫がされている。 	

書名 項目	ひろがる言葉 小学国語	17 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のポイントや学習用語を「ここが大事」でまとめて解説し、「学習のてびき」の中の言語専用コーナー「ことば」「言葉を増やそう」や巻末の「楽しく読もう」「言葉の木」「漢字を学ぼう」といった語彙の拡充や話型・文型のまとめなど、多くの語に出会い、実生活に生きる言葉の力を身につけられるよう工夫されている。 ○情報を取り出したり、情報と情報との関係を整理したりすることができる教材を複数設け、学習の手引きと巻末の「言葉の道具箱」の「情報のまとめ」を行き来することで、実の場で活用できる力が身につくよう工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」では、年度初めにゲーム的要素を取り入れた活動を行ったり、話し方だけでなく、聞き方を重点化した教材を設置したりして、日常生活での話の聞き取りに活用できるよう工夫されている。 ○「書くこと」では、組み立てメモや推敲の段階などで、児童同士が感想を述べ合ったり、助言し合ったりして、自らの表現内容を見直す視点を示したり、学習後に感想を交流し、自己評価・相互評価したりする機会が設けられている。 ○「読むこと」では系統的に読みの観点を配置し、学習過程を明確にした構成されており、「読むこと」と「書くこと」「話すこと・聞くこと」とを関連させてより思考を深める学びが展開できるようにされている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の流れを視覚的に示すことで学習者に「見通し」をもたせ、日常生活に即した言語活動と、「ふり返ろう」によって深い学びが自覚できるよう工夫されている。 ○入門期は、子どもの「気づき」を大切に、スタートカリキュラムに配慮し、書写や生活科などとの連携が意識した工夫がされている。 ○低学年では、言葉遊びなどに親しみ、中学年では、日常生活の中に生きることわざや慣用句などにふれ、高学年では、物語や漢文などの「古典」にふれるなど、各学年に、古典作品にふれる教材と、季節の風物や言葉遊びなどの言語文化に目を向ける教材が配置されている。 <p>＜読書に親しむ態度を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館を計画的に利用するための「情報活用教材」と図書紹介を中心とした交流活動を行う「読書交流教材」が全学年で設けられている。 ○他教科と関連のある図書が多数紹介され、図書紹介コーナー「ひろがる読書の世界」など、読書に親しむための工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコードを読み取ることで、教科書の内容に連動したコンテンツをウェブサイト上で閲覧、利用することができるように工夫されている。 ○紙面でもデジタル画面でも見やすいUDに配慮したオリジナルフォントを採用し、色調のバランスだけでなく形の上でも区別しやすいように配慮している。 ○巻末に、「ここが大事」「情報のまとめ」「学ぶときにつく言葉」などで系統的に整理し、確実に知識が定着するよう工夫をしている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生は文節単位で改行し、2年生の上巻まで分かち書きで表記している。 ○文学教材及び説明文教材の本文下部に、5行刻みの行数字に加え、1行ごとに行を示す「・」を付け、行を見つけたり指示したりしやすいように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年とも上下巻の分冊になっている。 ○日常生活や学校生活に関連した題材を設定し、「生きてはたらく言葉の力」を身につけられるように工夫されている。 ○「学習のてびき」の中に、学習活動を支える図解や児童の反応例を掲載し、主体的・対話的で深い学びにつながる工夫がされている。 ○巻頭に、言葉に親しむ活動としてゲームや音読などを取り入れ、国語学習開始の緊張を解きほぐす工夫がされている。 	

書名 項目	国語	38 光村
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「言葉の宝箱」では、学習指導要領をもとに3つのカテゴリーを設け、1年下から6年全てで共通化し、論理展開を明確にして伝えるための語句は「伝え合うための言葉」として示すなど発達段階を考慮した掲載の工夫がされている。 ○「情報の扱い方に関する事項」に特化した情報教材を整理し、関係を捉える学習を説明文で行い、情報の整理のしかたを「書くこと」単元の直前に配置するなど各領域の学習活動と関連させたり、思考ツール「図を使って考えよう」などを提示したりするなど工夫がされている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」では、「耳を傾ける」「話し合う」「声を届ける」学習を配置し、言葉の準備運動（アイスブレイク）、コミュニケーションコラム、対話の練習などのコミュニケーション教材を提示するなど伝え合う力を高めるための工夫がされている。 ○「書くこと」では、「情報を活用する」「思いや考えを伝える」「創作する」学習を配置し、「書くこと」のアイスブレイク教材を新設するなど、書いて交流する、意欲的に書く素地を作る工夫がされている。 ○「読むこと」では、身の回りの情報を読む力を伸ばし、学んだ読み方を活用する場を設けるなど、学びがつながる工夫がされている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学びの流れを視覚化することで見通しをもたせ、「問い」を学びの出発点とし、個別最適な学び、協働的な学びから学びを深め、振り返ることで、次の学びにつなげられるように工夫がされている。 ○入門期は、児童の言語生活の基礎・基本を培うことを目指して、現実の生活と学習を結びながら、楽しく、達成感がもてるよう工夫がされている。 ○「声に出して楽しもう」では、俳句や短歌などの伝統的な言語作品にふれ、「言葉について考えよう」では、問いから日常の経験を振り返ることで、自分が普段使っている言葉を見つめ直し、言葉への理解が深められるよう工夫がされている。 <p><読書に親しむ態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館などに関連した教材を設定し、テーマや必要な情報に合った本の探し方や調べる方法等を、写真を用いてわかりやすく伝える工夫がされている。 ○日常的に多読をし、多角的に読書の世界を広げていくための読書単元が設定されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QR コードを読み取ることで、教科書の内容に連動したコンテンツを閲覧、利用することができるように工夫がされている。 ○特別支援教育の観点から、全教科で UD フォントを採用し、色覚の多様性に対応し CUD（カラーユニバーサルデザイン）に配慮している。 ○巻末に「言葉の宝箱」「伝え合うための言葉」「学習に用いる言葉」を掲載し、児童の言葉との出会いを保障し、語彙力を高める工夫をしている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○2年生までは分かち書きを採用し、「文節による分かち書きー2・3文節まとめた分かち書きー分かち書きなし」へと段階的に慣れるよう工夫がされている。 ○物語分と説明文の本文には、5行ごとに行数字があり、新出漢字は全学年共通で、四角で囲まれ見つけやすいように工夫がされている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1～4年は上下巻、5・6年は年間1冊となっている。 ○各単元で「問いをもつ」ことを念頭に置くと共に、ゴールや振り返りの視点を明確にすることで、児童が主体的に取り組めるように工夫がされている。 ○学習のページは、二段構成で上段に活動の流れ、下段に学習ポイントが書かれ、学習を進めやすくする工夫がされている。 ○巻頭に、学習の進め方を視覚的に提示し、「言葉の準備運動」など、国語学習開始の緊張を解きほぐし、年間を通して続けていきたい活動が掲載されている。 	

書名 項目	新しい書写	2 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本点画の書き方をキャラクターの動きで示したり、運筆のリズムを「とん」「すう」「ぐっ」などの擬態語で示したりすることで、分かりやすくなっている。 ○2年生以上は、学習事項のポイントを「書写のかぎ」として示している。字を書くときに注意する点を、発達段階に合わせて、端的で分かりやすく説明している。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対話的な学習を促す設問で、単元の課題について思考する場面を設けている。 ○「ふりかえろう」が各学年で設けられており、その時間の学習を、系統性をもって振り返ることができる。 ○各学年のまとめ教材では、「書写のかぎ」を生かした活動が設定されている。特に3年生以上では、自分でめあてを選んだり設定したりして、取り組めるようになっている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○QRコードをタブレット端末で読み取ることで、ナレーション入りの運筆動画を見ることができる。ループ再生もできるため、それぞれのペースで学習を進めることができる。 ○「学びを生かそう」の単元を全学年で設け、1年「できるようになったよ」や6年「書写展覧会を開こう」などを通して自分の思いを伝えられるようになっている。 <p>＜毛筆と硬筆との関連＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆で学習するポイントを硬筆でも確認できる欄が設けられている。書き込み欄を上下や左右両方に配置することで、利き手に関わらず教材文字が見えるように工夫されているページもある。 ○1・2年生には水書用紙が収録されており、「いろいろな道具をつかって書いてみよう」というページで水書用筆について取り上げている。 <p>＜各教科や日常生活との関わり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生活に広げよう」では、観察カードやリーフレット、ポスターなどの書き方を取り上げ、書写の学びを他教科や学校生活に生かせるようにしている。 ○「文字といっしょに」では、古典や漢詩などさまざまな観点から「文字文化」に触れることができる。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○1・2年生の巻頭に、鉛筆の持ち方が右利き用と左利き用で示されていて、両利きの動画も見られる。 ○1年生がはじめに練習する「鉛筆でなぞる線」の種類が多い。 ○「文字といっしょに」で、漢字の話（1・2年生）・俳句（3年生）・百人一首（4年生）・世界の文字いろいろ（5年生）・漢文「論語」（6年生）とあり、伝統と文化を尊重する態度が養えるように配慮されている。 ○QRコードは、動画・シミュレーション・アニメーションがある。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年のなぞり書きの部分は、大きく表示されており、書きやすいように工夫されている。 ○学習内容の分野ごとにページが色分けされている。 ○学習ごとに「書写のかぎ」を設けて学習内容のポイントを端的に説明し、ポイントが多い3年以上は、キーワードを色分けし、目立たせる工夫をしている。 ○各学年の巻末に、1年からの既習内容をまとめてあり、これまでの学習を振り返ることができるようにしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○めあての達成に向けて、「書写のかぎ」で注目すべきポイントと単元の終わりの「ふりかえろう」の提示で、学習内容をまとめやすくなるように工夫されている。 ○めあてに対して同じ学習内容の漢字を2つ以上扱うことで、繰り返し練習ができ、めあての達成に向けて粘り強く取り組めるように工夫されている。 ○色使いが淡いので、目に優しく、気持ちを落ち着けて学習に取り組めそうである。 	

書名 項目	小学 書写	17 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 運筆のリズムを「びたっ」「すうっ」などの擬態語で表したり、キャラクターの動作で示したりすることで分かりやすくなっている。また、筆使いが朱書きで大きめに掲載されており、練習に生かすことができる。 ○ 全学年「めあて」が示されており、その「めあて」に沿って学習を進めていくことができる。また、3年生以上は、大事なポイントが「ここが大切」にまとまっているため、確認しながら練習することができる。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3年生以上では、「考えよう」でその単元の課題について思考を促している。 ○ 「ふりかえろう」では、低学年は顔マークで、3年生以上は◎などの記号で課題に対する達成度を確認できるようになっている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年で、学習のまとめとして「書いてつたえ合おう」という単元が設定されている。招待状や卒業制作など、児童の発達段階に応じて課題が設定されており、書写で学習したことを生活や授業の中に生かせるようにしている。 ○ QRコード（動画）をタブレット端末で読み取ることで、筆使いなどを確かめながら自分のペースで学習を進めることができる。また、QRコードには、「ワークシート」と「資料」もあり、学習に役立つ情報を見ることができる。 <p>＜毛筆と硬筆との関連＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1・2年生には水書用紙が収録されており、その用紙の裏に「水ふでの使い方」や「水書用紙の使い方」が載っている。また、「すいしょ」マークが付いているところで活用できるようにしている。 ○ 3年生以上では、毛筆の学習の始めと終わりに、「ためし書き」と「まとめ書き」を硬筆で書けるようになっている。 <p>＜各教科や日常生活との関わり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年「レッツ・トライ」というページで、メモの取り方（社会）や手紙の書き方（国語）など、各教科での具体的な活用の仕方が載っている。 ○ 「知りたい文字の世界」では、「漢字の成り立ち」や「手書き文字と活字」など、さまざまな観点から「文字文化」に触れることができる。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1・2年生の巻頭に、鉛筆の持ち方が右手用と左手用で示されていて、両利きの動画も見られる。 ○ 1年生と3年生の表紙には、水書学習や毛筆学習の導入アニメーションがあり、ワクワク感を持って学習に臨めるようになっている。 ○ QRコードは、動画・資料・ワークシート（1年生のみ）と3種類が整理されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 吹き出しを使用し、キャラクターたちがポイントを伝え、特に大切なポイントは、「ここが大切」というコーナーを作り学習内容をまとめている。 ○ 手本には、学年の発達段階に応じて文字ごとに筆順の番号が記されている。 ○ 小筆の使い方では、持ち方や書き方について、モデル写真を用いながらいくつかのポイントを説明して学習できるようにしている。 ○ 3年以上の「点画の種類」のページでは、2学年ごとにポイントを絞って記載するとともに、既習漢字を例に点画の種類を提示している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表紙がイラストではなく写真なので、教科書を開きたい意欲に駆られる。 ○ 「めあて」が各単元の始めに明確に示され、「考えよう」でめあてを達成するために必要な着眼点を示し、「ふりかえろう」で確認すべき観点が明示されていて、教科書を見ただけでも学習内容の見通しを立てやすい。 ○ 「知りたい文字のせかい」では、文字や書にまつわるさまざまな知識や伝統的な文化に触れられるように工夫されている。 	

書名 項目	書写	38 光村
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3年生以上は、「ねらい」「学習の進め方」「たいせつ」が示されることで、学習の流れがひと目で分かりやすくなっている。見直しをもつことで、児童が主体的に学習に取り組むことができる。 ○基本点画の書き方や筆使いを、キャラクターの姿勢や体の動きで示すことで、分かりやすく学習でき、印象にも残りやすくしている。また、1年生のひらがな教材では、「とめ」「はね」「はらい」「まがり」「おれ」「むすび」の筆使いを、言葉（擬音語・擬態語）で示している。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○低学年では、「ふりかえろう」で考えを整理でき、3年生以上では「考えよう」でその単元の課題について思考する場面を設けている。5・6年生では、課題に対して話し合う活動も設定している。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○QRコードをタブレット端末で読み取ることで、筆使いなどを確かめながら自分のペースで学習を進めることもできる。 ○6年生「私の文字」という単元では、著名人の直筆記名やインタビューが掲載され、自分の文字や生き方について、見直したり考えを深めたりできるようになっている。 <p>＜毛筆と硬筆との関連＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3年生以上は、毛筆の学習に「生かそう」という部分があり、毛筆で学習したポイントを硬筆でも確認できる欄が設けられている。 ○1・2年生には水書用紙が収録されており、「水ふでで書いてみよう」というページで水書用筆について取り上げ、マークを付けて活用する場面を示している。 <p>＜各教科や日常生活との関わり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「書写ひろげたい」というページについては、2年生では生活科の観察カード、3年生ではローマ字、4年生では理科のノートなど、各教科の学習と関連付けて横書きの書き方等について学習できるようになっている。 ○5年「めざせ！新聞記者」や6年「伝えるって、どういうこと？」では、情報をより分かりやすく伝えるために、文字の大きさや配列について考えることで、新聞やポスターの作成などに生かせるようにしている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○1・2年生の巻頭には、右利き用の鉛筆の持ち方が実物大でわかりやすく示されており、動画は、両利きで示されている。 ○1年生は「すたーとぶっく」として裏表紙も含めると12ページ設けていて、動画を用いながら、書写の約束・書写体操・字を書く姿勢・鉛筆の持ち方等、一つ一つ丁寧に示している。 ○巻末についている1・2年生の水書用紙は大きくて使い易い。水筆の持ち方や用意するものを書いてあり、「右手でかく人」と「左手でかく人」のQRコードもある。 ○QRコードは、動画・写真・補助教材・参考資料・アニメーションと豊富である。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○送筆から終筆にかけての筆記用具の動かし方を説明している。 ○6年の教科書には、1年～6年で学習したことが番号でまとめてあるとともに、各学年の学習内容を学習や日常生活に役立てるように例が示され、6年間で学習したことを振り返ることができるようにしている。 ○4年では、学習内容の大事なキーワードを穴埋め形式で書き込む箇所が設けてあり、児童自身にポイントを考えさせる工夫をしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「ねらい」を達成するための学習の進め方が簡潔にまとめられていて、達成できたかを欄にチェックして学習の振り返りを行うことができるようにしている。 ○1・3年に「スタートブック」が構成され、書写の学習の最初と毛筆の学習の最初に押さえるべき基本を確認しやすくなっている。 ○情報量が精選されていて簡潔にまとめられているので、大切なポイントがわかりやすくなっている。 	

書名 項目	新しい社会	2 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「まなび方コーナー」が適所に設けられ、具体的な学習の技能や方法が、各学年の発達段階に応じて分かりやすく示されている。資料の見方や読み取り方、調べ方、まとめ方などが提示されており、児童にとって学びやすい工夫となっている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「社会的な見方・考え方」を働かせるために、学習内容に応じて、①位置や広がり、②時間に着目、③かかわりに着目、④比較・分類・総合・関連付けて考える視点が適所に示されおり、児童にとって分かりやすく学べるようになっている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の問題解決的な学習の段階が示され、分かりやすく学習を進めることができる。また、各段階に応じてQRコンテンツが設けられ、児童の学びを高める相乗効果がある。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○3年、4年、5年上、5年下、6年政治・国際編、6年歴史編の全6冊の構成され、6年の2冊は使いやすさと児童の重量負担にも配慮して分冊となっている。教科書の内容・質をしっかりと堅持しつつも、教科書とQRコンテンツを相互に活用し学習を進めることを念頭に、「一人一台端末」の時代に、より使いやすい紙の教科書の形を実現している。 ○資料の幅が広がるように多様なQRコンテンツ（授業の導入の動画やワークシート、まなび方の解説動画、クイズ、写真、イラストなど）に加え、資料活用の目的を想定しての掲載がされており、充実した学習や深い学びにつながる活用ができる。 ○「○○さんの話」コーナーを随所に設けて、様々な仕事や社会的活動にかかわる人の姿を取り上げて、共感的に人の生き方を学ぶことができる。そして、児童のキャリア教育、社会参画の意識を高める視点としても活用することができる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の気づきや疑問を反応例として表し、自然な流れで学習問題を示したり、分かったことを学習のまとめの例として表したりしており、習得した知識を定着させることができるように工夫されている。 ○本文と資料がはっきりと区別できるようにレイアウトされ、すべての児童にとってすっきりとして見やすく、読みやすいデザインとなっている。図表などは、カラーユニバーサルデザインに配慮して作成されたり、ユニバーサルデザインフォントが使用されたりと、可読性を高める工夫がされている。 ○全学年で「まなびのポイント」として、学習活動（○○を話し合う、○○を考えよう、○○をもとに計画を立てよう、○○を整理しようなど）が例示され、何を重視して学習を進めていけばいいのか、児童にとって分かりやすいヒントとなっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○小単元の学習問題や毎時間の学習のめあて、学習のまとめに向かう問いかけなどが充実しており、問題解決的な学習を無理なく進められる。また、5・6年生の教科書は上下の分冊として使いやすさ重量負担に配慮している。 ○教科書に分かりやすく見方・考え方を適所に示したり、「まなびのポイント」を示したりしながら、児童の問題解決をサポートして、社会科としての深い学びの実現を図っている。 ○資料も工夫され、児童の問いが生まれる資料となっている。QRコンテンツも充実しており、様々な場面で活用できる。児童にとって、分かりやすく社会科を学ぶことができる。 	

書名 項目	小学社会	17 教出
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学びのてびき」が多くのページで示されており、資料のどの部分に着目すれば良いかなどがわかりやすく示されている。キーワードについて詳細な説明が用意されており、児童が理解しやすいよう配慮されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の問いがはじめに示されており、探究的な学習になるように意識されている。巻頭ページに社会科で求められている見方・考え方についてわかりやすく例示されている。各単元の終わりには対話的な学びが推進されるよう、学習方法や例示がされている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとにインデックスで「つかむ」「調べる」「まとめる」と学習段階が示されており、現在学習がどの段階にあるのかをつかみやすい。 ○巻頭のモデル図で学習の進め方や振り返る観点が設けられており、自己の学び方を振り返り、次へ活かせるよう配慮されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタルコンテンツが多く設けられており、学習内容を視覚的に学ぶことが可能である。児童がQRコードを読み取ることで、自身の学びが十分でない部分を補完することができるようになっている。文章のみでは伝わりにくい部分が図や表、グラフで示されており、視覚的に理解できるようになっている。 ○過去と現在を比較する資料などが用意されており、資料を深く読み込むことで、思考がより深まるよう配慮されている。 ○一つ一つの資料が大きく示されている。デジタルコンテンツとしてクイズなども用意されており、児童が意欲的に学ぶことができるようになっている。人物のインタビューが多数掲載されており、社会との繋がりを深く意識させる内容になっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○要点が本文に簡潔にまとめられており、児童が理解しやすいものになっている。年号の表記が西暦・和暦ともに示され、児童がイメージしやすくなっている。 ○文中に会話文を用いて進められる部分があり、人物の会話の中で、児童が自然と疑問を抱き、問に対する解を思考できるよう工夫されている。 ○「つなげる」場面において、児童が自ら学習内容を深めるために、振り返りの仕方などが会話文を通して児童に分かりやすく示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル資料が効果的に配置されており、児童が意欲的に学べる教科書になっている。 ○社会の学習の進め方や見方・考え方が明示されており、児童が見通しをもって学習することができるようになっている。資料が充実しており、一方で文章は簡潔にまとめられているため、資料を用いた思考力・判断力・表現力を育成しやすくなっている。 	

書名 項目	小学社会	116 日文
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学び方・調べ方コーナーを充実されており、観察や調査に関わる技能、資料の読み取りや活用に関わる技能、表現活動に関わる技能の習得がしやすいようにされている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会的な見方・考え方のコーナーが充実している。QRコードを読み取ると、ワークシートにとび、社会的事象に対して、具体的にどんな視点で考えたらよいのが記載されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭ページでは、前学年の学習内容の振り返りと社会の学習の進め方が具体的に示されており、学習への見通しと期待感がもてるよう工夫されている。巻末ページでは、該当学年の学習内容を具体的に振り返れるようになっている。 ○次の学年の内容も記載することで、来年度への見通しと期待感がもてるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコードの数が非常に多く、リンク先はワークシートやNHK for schoolの関連動画、教科書に掲載の資料と多岐にわたる。 ○教科書の資料はデジタルでカラーのものがタブレットに出るので、教師は教材づくりがしやすくなり、児童は端末に保存してデジタルノートとして使いやすくなる。 ○SDGsとの関連資料が豊富である。こちらもQRコードがついており、リンク先の資料を閲覧できるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文字のフォントサイズの強弱、字体をユニバーサルデザインにし、読み取りやすくしている。図表も、色調や色の組み合わせ、斜線やドットを用いて見やすく工夫している。 ○見開き2ページで問題解決学習が展開できるようなレイアウトにしている。また、見開きでどのような能力をつけることができるのかを脚注インデックスで示している。 ○児童の思考がより深まるように、キャラクターがアドバイスをしたり、話し合いの様子を示したりしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタルコンテンツがとても充実している。QRコードを読み取ると、アプリケーション、ワークシート、スライドショー、外部リンク、動画、シミュレーション、画像、関連資料と8種類が用意されている。教師・児童双方にとって、多様なニーズに応えられるようになっている。 ○政治国際編と歴史編で分けず、1冊でまとまっているので、児童は準備がしやすく、1冊で学習の復習もしやすくなっている。学習者用デジタル教科書に関しては、タブレット上でノートを作ることができるので、教科書の内容を使いながら効率的に、自分の学習を進めることができるようになっている。 	

書名 項目	新しい地図帳	2 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地図記号、索引、方位、縮尺、地形表現、土地利用といった基礎的・基本的な地図の読み方を丁寧に解説してある。また、地球儀の活用の仕方について、写真でわかりやすく説明してある。 ○QR コンテンツには、クイズや動画で地図のきまりや都道府県名、地名などの習得に取り組めるコンテンツを収載してある。 ○日本は標準的な地方区分ごとに、世界は州ごとに、原則として縮尺を統一した地図を配し、適宜拡大図を設けて、各地域の地理的な理解を深めるとともに、位置関係を調べたり、地域相互の結びつきや比較ができるようにしたりするなど、多面的な学習ができるように構成してある。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ホップステップマップでジャンプ」を随所に設置し、70の問いと作業を設定し、地図学習を深められるようにしてある。 ○日本の自然災害について、日本列島全体の災害地図を配し、地形や気候などとの関係から災害の起きる要因や防災対策について考察できるようにしてある。 ○二次元コードからアクセスできる QR コンテンツを多数収載し、都道府県地図や白地図、地形がわかる動画などを活用して学習を深められるようにしてある。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○冒頭の世界と日本の地図で、世界や日本の様々な事物を紹介し、児童の「何があるんだろう」「地図帳で調べてみたい」という意欲を喚起するようにしてある。 ○「ホップステップマップでジャンプ」を随所に設置し、70の問いと作業に取り組むことで、楽しく地図学習に取り組めるようにしてある。 ○各地の伝統工芸や名産品、郷土の偉人に関する記念館などを多数取り上げ、郷土に対する誇りと愛情をもてるようにしてある。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○A4の判型を生かして、広い範囲を紙面に収めてある。 ○主な歴史の舞台、世界遺産、ラムサール条約や世界ジオパークの登録地などについて、個別の記号を設けて注目させるようにしてある。 ○地図及び索引で全市町村名を網羅してある。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○地図中の文字や記号は大きく、字体（フォント）も丸ゴシック系の親しみやすいものにしてある。特に地名の表記は白い縁取りをして見やすくしてある。全体的にユニバーサルデザイン書体を使用しており、読みやすく見やすい仕様となっている。 ○地名は全てに、その他の文章などは3年生配当以上の漢字にふりがながついている。 ○各ページに登場するキャラクターの発言を用いることで、学びを深めることができるようになっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○発達段階を考慮し、内容が厳選されている。内容を厳選しながらも、日本の自然、産業、交通、都市、貿易、歴史、伝統文化については15ページにわたって資料を掲載している。 ○児童が地図帳を開きたくなくなる様々な工夫がされ、見やすさ、使いやすさに関しても多くの配慮がなされている。 	

書名 項目	楽しく学ぶ 小学生の地図帳	46 帝国
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地図の概念や方位、地図記号、地図のやくそく、記号凡例や索引などの地図帳の使い方をスモールステップで丁寧に解説している。 ○地名を正しく読めるように全ての地名にふりがなが付けてある。また、都道府県の名称と位置、都道府県の形、都市と産業、地域間の結びつきを正しく把握できるように、記号や文字をくっきり記載している。 ○北方領土や竹島、尖閣諸島について日本固有の領土であることが理解できるように写真や模式図を用いて解説している。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャラクターによる「問いかけ」が各所に配置され、「地図マスターへの道」の学習活動がさらに学びを深められるようになっている。 ○地図の見方を示唆したり、活用を促したりするキャラクターによって、児童自らが着目したり考えたりできるようにしてある。 ○持続可能な社会の実現に向けて考えを深められるように、SDGs の特設ページやアイコン、防災・減災に関する資料を掲載している。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地図に対する興味・関心をひきつけ、地図活用技能や知識が身につくような問いを100問掲載した「地図マスターへの道」のコーナーを各所に配置してある。また、巻末に取り組みの記録のページを設け、自学自習が進められるようになっている。 ○学習を支援する「二次元コード」では、アニメーションによる解説やクイズ、動画やVR画像など、デジタル端末を活用したコンテンツを豊富に収録している。 ○各見開きの右ページ端には、地図帳のテーマごとに色分けしたインデックスを設けて、目的のページを探しやすくしてある。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○A4判のワイドな紙面を生かし、地理的な位置関係や地域間の結びつきが的確に捉えられるようにしてある。 ○地形の様子が捉えやすくなるように、土地の高さにより色分けと陰影表現を組み合わせた立体感のある地図表現にしてある。 ○索引の都道府県名・県庁所在地・国名を赤色文字、日本の歴史地名は青色文字に統一して、見つけやすくしてある。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○レイアウト統一、文字のフォント・大きさ、文節改行、色覚特性に配慮した色づかいなど、ユニバーサルデザインを取り入れている。インクルーシブ教育へも配慮し、手話による都道府県の表し方を、「手話で表す都道府県」で紹介している。 ○学習上大切な都道府県や国名、都道府県庁所在地名や首都名は、大きく大きくすることで他の地名よりも読みやすくしてある。 ○各ページに登場するキャラクターの発言を用いることで、学びを深めることができるようになっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○資料が豊富にあり、社会科のみならず様々な教科で活用ができる。地図帳を使い始める3年生のためのページが14ページあり、大きな文字で見やすいため、教師も児童も負担なく地図帳を使った学習が始められるようになっている。 ○QR コンテンツも豊富にあり、一人一台端末を活用することで、より理解を深めることができるようになっている。 	

書名 項目	新しい算数	2 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○QR コンテンツで作図や計算の手続き等が動的・視覚的に表され、児童の理解差に応じて支援ができるよう工夫されている。正誤判定や結果の記録機能により、学習評価を効率的に行える工夫がされている。 ○巻末に「ほじゅうの問題」を設定し、児童の理解度や進度に対応している。 ○復習問題の「おぼえているかな？」や巻末の「ふりかえりコーナー」が設定され、知識・技能がスパイラルで習得できるよう工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「つないでいこう算数の目」のコーナーにより、数学的な見方・考え方を働かせる場面を必要に応じて設定している。 ○問いを生み出す「？」付きの吹き出しや考える余地を残した吹き出しにより、思考の活性化が図られている。 ○ブロックの操作の説明と式を図解した説明が対応し、計算の仕方について、操作と式を関連付けながら式を読む活動ができるように工夫されている。 ○まとめの後に、「それなら」という吹き出しを適宜使用し、学びの連続性を意識付けるとともに、発展的に考えることができるようになっている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プロローグのタイトルに、問いが書かれ、新しい学習の導入が工夫されている。 ○問題解決の場面では、何度も試行錯誤できるシミュレーションが用意されているので、児童の意欲を高めることができる。 ○単元の後半に自分たちで学習を切り拓くための「それなら次は？」のページがある。これまでの問題解決の過程を振り返り、新たな課題を見出し、解決の計画を立てて実行する力を育成するページとなっている。 <p>＜数学的な活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元内において、吹き出し「同じように考えると」のコーナーで既習の活用を促す場面や、「それなら」により、発展的・創造的に考え、さらに課題を追求できるように工夫されている。 ○日常生活場面から数学化される導入「単元プロローグ」や、学んだことを生活場面で活用できるような「いかしてみよう」のコーナーが設定されている。 ○問題解決型の学習が対話的に行える授業モデルを巻頭「学びのとびら」のコーナーで示す工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○分冊「はじめよう！さんすう」から1年生の学習を開始し、紙質が書き込みしやすい素材で作られている。さらに、ブロック操作をページの見開きで行えるようフラットな構造に綴じ込み方が工夫されている。 ○巻末「算数で読みどころ」では、SDGsに関連した特設問題が設定されている。 ○巻頭「私と算数」では、現在活躍するアスリートなど著名人の算数にまつわるエピソードなどが掲載され、算数が児童にとって身近になるよう工夫されている。 ○巻末付録に、操作活動等で用いる切り取り線の入った教具が用意されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○学習者用デジタル教科書では、特別支援への対応として、文字色や大きさ、色反転、ルビや分かち書き表示などの変更ができる工夫がされている。帰国・外国籍児童など日本語が苦手な児童への対応も可能となっている。 ○UD 教科書体、カラーUD が用いられ、行間や字間が適度に空き、分かち書きや言葉のまとまりでの改行などにより、見やすく読みやすいよう工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」を実現し、問題解決型の学習展開がなされるよう構成され、どの児童も数学的な活動をとおして「数学的な見方・考え方」を働かせて学習できるように工夫されている。 ○個別最適な学びが実現できるよう、デジタルコンテンツや付録、特設コーナー、意図的に配置された「吹き出し」による思考や学びの支援などが充実している。 ○デジタル教科書としてのよさが生かされるよう学習の効率化が図られ、深い学びへとつながるデジタルコンテンツが多く取り入れられている。 	

書名 項目	たのしい算数	4 大日本
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○練習問題に加え、巻末に「プラス・ワン」の問題を用意し、知識・技能を習得しやすい工夫をしている。 ○QR コードに既習事項の内容や問題の答え、数直線の描き方等を載せ、児童が自学自習で知識・技能が習得しやすいように配慮されている。 ○問題に対する考え方が理解しやすいように、「発見!」の見出しを付け、学習内容を図や言葉などを用い、丁寧に説明されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「算数の大切な考え方」というコーナーで、考えるための視点をまとめている。また、それらの考え方を各単元の必要な場所に記載したり、「算数の考え方コーナー」のどの部分の考え方を記載したりすることで、1年間を通して「算数の考え方コーナー」が活用され、「きまりを見つける」「学んだことを使う」など、既習の考え方と比較し、統合的・発展的に考える力を身に付けられるようになっていく。 ○図や表、また、期待する児童の反応(考え)を児童のつぶやきとして多く書かれているため、数学的な見方・考え方を働かせて考え、表現できるようになっている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○振り返りのポイントを示したり、振り返りの記述例を載せたりすることで、児童が自分の学習を振り返る力が育めるよう工夫されている。 ○「算数の学び方」や「算数の学び方コーナー」を設定することで、見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫がなされている。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○導入場面では、日常生活に関連した問題から算数的な問題を取り上げ、身近なところから算数の学習に向かえるようになっていく。単元の終末場面では、練習問題が児童の実生活に関連した内容で設定されたり、「学んだことを生かそう」というコーナーを設定したりし、学習内容を日常生活に生かす視点で構成されている。 ○問題解決の方法を考えたり、考え方を説明したりする場面では、吹き出しによるつぶやきや、考え方の例を提示することで、数学的な見方・考え方を働かせながら学習に取り組めるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○板書を意識した資料の提示の仕方に工夫され、教師が見通しをもって指導をすることで、児童に力を育みやすい構成になっている。 ○問題で取り扱う素材について、分数のかけ算のページでは、牛乳の分量について扱ったり、面積の問題ではケーキを扱ったりし、児童の生活経験により近いものを意図して用いている。これまでの経験と算数の問題場面を結び付けたり、具体的な場面を想像して考えたりしやすくなるよう工夫している。 ○登場する人物は、性別・国籍のないものとするなど、多様性を認める内容となっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○「めあて」や「新たに学習する算数の用語」、「ひらめきアイテム」で扱う視点など、大切な言葉を色分けしたり太字にしたりして強調され、分かりやすく表記されている。 ○ページの左側に学習の段階を示す「まとめよう」などの言葉が書かれ、児童にとって学習過程の見通しがもてるよう工夫されている。 ○フォントにUD体がいられ、誰もが見やすい配慮がなされている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○図や言葉を使った丁寧な説明と練習問題の量、QR コードを活用した既習事項の提示内容が充実し、知識・技能の定着を図ることができるよう工夫されている。 ○「算数の考え方コーナー」や「ひらめきアイテム」の活用や豊富な児童のつぶやきが用いられ、思考力・判断力・表現力を育むことができるよう工夫されている。 ○算数の学習の「学び方」を提示したり、各学習の学びの段階が理解できるように記載されたりすることで、児童が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 	

書名 項目	みんなと学ぶ 小学校 算数	11 学図
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習の最後に「できるようになったこと」を載せたり、巻末に「もっと算数」などの追加問題を設定したりすることで、知識・技能を習得するための機会を充実させている。 ○単元の導入場面の資料が絵と吹き出しで連続的に表され、習得させたい知識や技能の視点をわかりやすく示し、日常の場面から数学的な見方・考え方を働かせ、問題場面を見出しやすいよう工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ヒトツツ」などの考え方モンスターを活用し、課題を解決するための考え方を示しながら児童が考えられるような構成となっている。また、数直線や表などと考え方モンスターを組み合わせ、関連付けて考えられるように工夫されている。 ○児童の吹き出しや、考え方の例示がされ、課題を解決するための考え方に見通しをもったり、自分の考えを表現する時の参考にしたりできるようになっている。このことで、1人で考える場面でも、他者と一緒に考える場面でも、思考したり、表現したりすることがしやすくなるよう配慮をしている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「はてなを発見」コーナーでは、漫画のような表現で児童が学習の見通しや問いをもちやすくなるよう工夫されている。また、「考え方モンスター」を使って考え方の方向性を示すことで、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○「はてなを発見」では、漫画のような表現で児童が理解しやすい内容となっている。また、どんな「考え方モンスター」を使って学習をしたか振り返らせることで、算数の学習の視点を自覚させ、自分の学習の成果を算数の学習に応じた視点で振り返ることができるようになっている。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○はてなマークで疑問を提示することで、児童が比較をしたり、演繹的に考えたりすることができるようになっている。 ○単元の導入と終末では、日常生活から見出した問題場面に触れさせることで、数学的な見方で事象を捉え、問題解決ができるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「はてなを発見」では、既習事項や身の回りのことを取り上げて、漫画のように順序立てて載せているため、児童が理解しやすい内容になっている。 ○QRコードを読み取る資料では、具体物の操作がタブレット上でできたり、補充の問題に取り組んだりすることができるようになっている。 ○切り取って使える資料が巻末についていて、具体物を操作する活動ができる。 ○教科書に図などを直接書き込んで活用する資料が多くある。紙面がAB版のサイズでやや大きめなため、紙面が湾曲せず書き込みやすい仕様となっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてとまとめが、赤色を用いて見やすく表されている。 ○UDフォントが使われている。 ○教科書の大きさがAB版になっており、余白が多く、児童にとって見やすいものとなっている。 ○「算数のまとめ」のページでは、既習の学習内容を扱った学年が表記され、必要に応じて学年をさかのぼって復習ができるよう工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○丁寧な導入や、充実した練習問題で知識・技能が習得しやすくなっている。 ○「考え方モンスター」や吹き出し、図を活用し、児童の思考力・判断力・表現力を育みやすいものとなっている。 ○「考え方モンスター」を継続して活用することで、学び方に見通しをもったり、学習内容を具体的に振り返ったりすることができ、児童が主体的に学習に取り組めるよう工夫された構成となっている。 	

書名 項目	小学算数	17 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能の習得のために、「考えるヒント」で問題が解けない児童に考えるきっかけを与えている。また、「よくあるまちがい」では事前に気を付けるべきポイントを確認することができるよう工夫されている。 ○単元の導入の「どんな学習がはじまるかな？」では、身近な場面から問題を発見できるよう工夫されている。各学年で培った知識・技能の学びをつなげるための「学びのマップ」や「学びの手引き」のコーナーが設定されている。 ○単元末に「たしかめよう」、巻末に「ステップアップ算数」を載せ、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう構成されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「はてな、なるほど、だったら」の吹き出しで問題発見の過程がわかりやすく表現されている。 ○単元を通して、問いを解決することを繰り返しながら、つながりをもって学習が進められるように構成されている。 ○図や表、式などを基にしたいくつかの考え方が示され、それらの考え方を比較することで、理解を深めることができるよう工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学びの手引き」では、児童が学習の進め方や学び方を身に付けることができるよう工夫されている。「学んだことを使おう」「算数ワールド」では、普段の生活との関わりに触れる活動を通し、算数を身近な生活と結び付けて捉えられるよう工夫されている。 ○練習問題ごとに「たしかめ」として活用できるよう3段階の顔マークが示され、学習の振り返りが容易にできるよう工夫されている。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「算数が好きになるはじめの一步」では、①問題をつかむ②自分の考えをもつ③話し合っって深める④振り返ってまとめる⑤広げて考える、の学びのサイクルがまとめてあり、この問題を考えながら、学習の進め方を知ることができるよう工夫されている。 ○「学んだことを使おう」では、日常生活と算数を関連付け、算数を用いて解決ができるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタルコンテンツにより、解説動画やタブレットを活用した個別最適な学習が協働的に進められるよう構成されている。 ○巻頭に「算数が好きになるはじめの一步」や「まなびリンクを使って学ぼう」など、1年間の学びを期待させる特設コーナーが設定されている。 ○絵や写真を効果的に用い、算数が身近な課題として感じられるよう工夫している。 ○場面絵を多く活用し、児童が問題場面を想起しやすいよう工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が見やすくなるよう、余白とのバランスが良く表記されている。 ○各時間の課題、まとめなど、重要事項や新しい用語が囲みや太字で強調され、見やすく工夫されている。 ○数学的な見方や考え方は、キャラクターの吹き出しによって表記され、児童にとって身近で楽しく感じられるよう工夫されている。 ○誰もが見やすく利用しやすくするための配慮から、配色やUDフォントを意識して使用している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「問いの連続」を重視し、解決から「新たな問い」を見出す学びがスパイラルで学習できるよう、児童が意識して学習できるような構成となっている。 ○「算数で使いたい考え方」では、各学年の系統性が捉えやすくなるよう考え方が示されている。 ○「まなびリンクを使ってまなぼう」のコーナーにより、①動かして考える②動画で確かめる③考えを書く、伝える④カメラで記録するなどの手引きが示され、デジタルコンテンツの充実が図られている。 	

書名 項目	わくわく算数	61 啓林館
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○練習問題に加え、巻末の「もっと練習」に、補充問題や挑戦問題を用意し、習熟度に応じて取り組むことができるようになっている。また、単元及び年間を通して、学習したことが確実に身に付けられるように、練習や復習のページを計画的に配置している。 ○学びのつながりを感じながら進められるよう、巻頭の「もくじ」や巻末の「学びをつなげよう」で既習事項とのつながりが示されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の場面では、分かったことを表現したり、考えたことからよりよい解決を目指したりする活動が、イラストや吹き出しで示されている。また、既習を生かす場面では、見通しをもったり、根拠をもって考えたりする様子が示されているため、児童が数学的な見方・考え方を働かせて考えることができるように工夫されている。 ○「見方・考え方を深めよう」のページでは、文章題を図に表す際の図の描き方が丁寧に示されている。数量の関係や問題の条件に着目して解決することで、思考力が育成されるよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入では、身の回りの事柄や既習事項を取り上げて、興味や関心をもって新しい学習へと入っていけるようになっている。単元の最後には、「やってみよう」として、学びを生かして解く問題やゲームを載せ、学習したことを発展的に考え、活用・探究に取り組むことができるよう工夫がされている。 ○単元全体を振り返る場面を設け、大切な「数学的な見方・考え方」を確認できるようになっている。また、「振り返り」については例文が示されている。 <p><数学的活動を充実させるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭では、算数で使いたい考え方を「図・演繹・類推・帰納・統合・発展」の6項目（2・3年生は4項目）にまとめ、既習事項を例に具体的に紹介している。 ○価値付けたい数学的な見方・考え方にマーカーをつけて強調している。児童が、数学的な見方・考え方を働かせ、統合的・発展的に考えていくことができるよう、キャラクターの吹き出しに、ヒントや問いかけが書かれている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QR コンテンツが充実し、ブロック操作や用具の使い方の説明動画、練習問題、間違いやすい箇所の確認スライド、主問題の解説動画等、タブレットを活用して個別に学習を進めることができるよう工夫されている。 ○第1学年の入学初期の学習内容を、A4版中綴じ製本で分冊化している。開くとフラットになるよう綴じ込まれているため、ブロックが置きやすく、文字が書き込みやすくなっている。5・6年生は合冊構成にすることで、1年間の学びを見通す力を育むとともに、中学校の1冊構成に慣れ親しむことができるようになっている。 ○写真やイラストは、外国ルーツの方やジェンダー、福祉について配慮され、多様性を認める配慮がなされている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年、文章を文節で改行することで、文意を捉えやすいよう工夫されている。また、めあてに色を付けたり、まとめを囲んだりすることで、一目で分かるように工夫されている。 ○練習問題では、問題のねらいや学習したページを示し、児童が振り返って確認ができるようになっている。 ○色覚や視覚の個人差を問わず、誰もが紙面の内容を判別しやすい配色・デザインになっている。文字は、UDフォントを使用している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容や学習の進め方に見通しをもったり、学習を振り返ったりする活動が示されることで、児童が主体的に学習に取り組みやすい構成となっている。 ○既習事項を確認してから新しい学習へと向かえるよう「たしかめよう」や「復習」のページを設け、理解の定着が図れるように工夫されている。 ○算数での学習を活かして、現代的な課題について考えるページを設け、活用・探究といった数学的活動が行えるよう工夫されている。 	

書名 項目	小学算数	116 日文
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時間に「めあて」と「まとめ」を明示し、児童が主体的に学習を進め、学習の流れを分かりやすく捉えられる工夫がされている。 ○巻末に「算数マイトライ」を設け、「しっかりチェック」「ぐっとチャレンジ」「もっとチャレンジ」とレベル別になっているため、児童一人一人の実態に応じて主体的に取り組むことができるよう構成されている。 ○単元末に「間違いやすい問題」を設け、つまづきやすい内容への対応が工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の発言を模して問題解決の見通しを立てたり、結果の見積もりを立てたりしながら展開されている。また、複数の単元や領域を結び付けた内容を用いて、理由や方法などを説明する問題が扱われている。 ○見通しを立てたり筋道立てて考えたりするための着眼点を「見方・考え方」として示し、数学的に思考・判断・表現する力が育つように工夫されている。 ○「レッツプログラミング」というコーナーを全学年にも設け、プログラミングの思考を育めるよう工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1～4年生の上巻の巻末に、「学び方ガイド」と「算数で使いたい見方・考え方」があり、児童がどの学習場面でも活用して確認ができるよう工夫されている。 ○「自分でみんなで」では、問題解決の過程で自分の考えを表現したり、他者と協働して取り組んだりする場面が提示され、児童による主体的な算数の学びを実現できるように工夫されている。 ○「使ってみよう」では作業的・体験的な活動につながるよう工夫されている。また、「算数ジャンプ」では探究的な問題を取り上げ、算数の楽しさやよさを感じることができるように配慮されている。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入学初期の学習内容を、B5 版中綴じ製本で分冊化されている。開くとページがフラットになるため、ブロックが置きやすく操作がしやすい。また、文字が直接書き込みやすい紙質に工夫されている。 ○各単元の初めに、児童の興味関心に働きかける題材を取り入れ、日常生活と算数の関連を図って解決できるように工夫されている。また、「使ってみよう」を設定し、学習内容を日常生活に生かす活動が取り入れられている。 ○巻頭の「学び方」の説明に「学び合おう」と示されており、話し合いを促すよう工夫されている。巻末には「算数で使いたい見方・考え方」が一覧で示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○表紙には学年の学習内容が描かれており、学びのプロセスを大切にしている。 ○図形に使う色はクリーム色で統一し、グラフや表の色は見分けやすく目にやさしい色づかいになるよう配慮されている。 ○QR コードが掲載されており、図形や割合の変化の様子等、動かして確かめたり、動画で見たりできるようになっている。また、コードの上に見出しが書かれている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてを太字と下線で強調し、まとめを太字とカラーで囲み、見やすく分かりやすくする工夫がされている。 ○UD フォントが使われているため、視認性が高い。 ○図形に使う色の数を抑える等して、見分けやすいよう配慮されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○異校種間の円滑な接続を意識し、1年生の導入期は、絵本の読み聞かせを模して、幼児期の生活経験と算数を接続させられるよう工夫されている。 ○ページの側注に学習のステップを示したり、「学び方ガイド」コーナーにより算数の学び方を示したり、筋道立てて考えるための着眼点になるよう工夫されている。 ○SDGs、情報リテラシー、防災教育、伝統・文化等の題材も取り上げ、現代的な諸課題へ目がいくよう工夫されている。 	

書名 項目	新しい理科	2 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察や実験では、実験結果を書き込めるワークシートや、実験のやり方の動画をQRコードから読み込むことができ、学習者用端末で活用しやすいように工夫されている。単元末の「ふりかえろう」には、知識面での大事なことが簡潔にまとめられている。また、単元の最後には「たしかめよう」の問題があり、科学的な言葉の確認をしたり説明したりすることで、単元で得た知識の確認と振り返りができるように工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各ページが「一段組」になっているため、ページの上から下への視線移動で読むことができる。また、問題解決の過程ごとの区切りがはっきりしているため、とても読みやすくなっている。「のぼそう！理科の力」として、理科の見方・考え方を働かせるヒントが示されている。また、話し合いの例など、児童が考え、表現するためのヒントも随所に盛り込まれている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭のQRコードより動画を視聴でき、理科の学習への興味・関心を高める内容になっている。単元導入の「レッツトライ」で、児童が主体的に問題を見出せるように工夫されている。単元末には、「こんなところにも！理科の世界探検部」として、学んだことを日常生活や社会とつなげるための読み物が掲載されている。 <p>＜見通しをもって観察、実験を行うための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学びのライン」として、問題の把握からまとめまでが1本のラインでつながっており、見通しをもって学習に取り組めるように工夫されている。観察や実験のやり方が、図や写真、表などを使って、わかりやすくまとめられている。また、QRコードから動画やワークシートを読み込むこともでき、スムーズに観察や実験に取り組むことができるようになっている。 <p>＜自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「デジ活」というコンテンツを使うことにより、自分の予想を具体的に表現できるようになっており、自分で立てた予想の根拠がはっきりするように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○学習者用端末の活用を意識した構成になっており、QRコードを読み込むことよってさまざまな資料を見ることができるようになっている。また、QRコードが「動画」「やり方」「デジ問」等と分類されていて使いやすい。 ○写真が大きく、きれいで、細かいところまで観察できるものになっている。また、見せたいところがよくわかる構図になっている。 ○巻末には、ノート書き方や発表の仕方、話し合い方、実験器具の使い方等、理科の力をつけるための資料がまとめてあり、使いやすい。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○「問題」「観察・実験」「まとめ」の3項目は特に大きな文字で示されている。また、「まとめ」はすべての漢字にルビが振られていて、読みが苦手な児童でも学習内容を確認められるようになっている。 ○裏表紙に「もくじ」があり、1年間の学習内容がわかるようになっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタルコンテンツ（動画、デジ活、デジ問、理科ノート）や単元末の「ふりかえろう」「たしかめよう」から、知識及び技能が習得されるようにするための工夫がされている。 ○問題解決の流れを「学びのライン」で提示し、また、キャラクターの台詞から理科の見方・考え方の視点を示すことで、児童が科学的に問題解決できるように工夫されている。 	

書名 項目	たのしい 理科	4 大日本
内 容	<p>＜知識及び能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が見通しをもてるよう、「問題」「予想」「計画」「実験」「結果」「考察」「結論」と明記されている。また、キャラクターの吹き出しで児童が観察、実験の計画を立てやすいようヒントを示している。単元末には、一問一答のような問題と併せて、説明させる問題を多く取り入れている。巻末には、1年のまとめが設定されており、大切なポイントを確認することができる。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題を見いだす場面や予想を立てる段階で、思考の手がかりになる会話が示されている。差異点や共通点を基に問題を見出したり、キャラクターや写真などをヒントにしたりすることができる。また、結果のまとめかたを児童のノート風に図や表で整理して掲載されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して育成する問題解決能力と問題解決の流れに沿った学び方が巻頭に表記されており、主体的に学習に取り組むことができるようになっている。また、観察・実験の方法が写真や図で示されており、児童が主体的に活動できるようになっている。あわせて、体験的な活動の中で、生物を愛護しようとする態度や生命を尊重しようとする態度が養われるような展開がされている。 <p>＜見通しをもって観察、実験を行うための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「理科の学び方」で問題解決の過程を示し、学んだことが次の問題につながるように工夫されている。また、それに合わせたノートのまとめ方が示されており、学習の流れをより意識できるように工夫されている。理科の見方につながる着目点を「ココに注目」で示しており、児童自身が理科の見方を働かせて学習できるようにしている。 <p>＜自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「問題を見つけるコツ」「予想するコツ」等、問題解決の過程に沿って、児童が考えるヒントが書かれている。また、キャラクターの会話が問題解決における理科の見方・考え方のヒントになっている。また、同一の実験を複数回、または複数の実験方法で検証する例が示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各ページの横に QR コードがついており、「実験器具の使用法」や「学習に関する動画」が確認できるようになっている。 ○「りかのたまたまばこ」があり、単元に関する資料（読み物）が豊富である。 ○SDGs にもふれた資料が豊富である。 ○「サイエンスワールド」という中学校で学習する内容の資料があり、系統性を意識した作りになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○結論は上部に課題と対応する内容が示されており、点線で区切った下部に補足的に重要なことがまとめられている。 ○注意を喚起するマークを表記し、安全に観察・実験を行うことができるようになっている。 ○予想しよう、話し合おう、計画を立てようという学習過程の流れに合わせた表示がある。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○実験器具の使い方の動画や単元末に「たしかめよう」「学んだことを生かそう」、巻末に「チャレンジ問題」があり、知識及び技能が習得されるようにするための工夫がなされている。 ○育成を目指す問題解決の力にマークで強調し、また、キャラクターの台詞で、「ココに注目」の表示をすることで、児童が科学的に問題解決できるように工夫されている。 	

書名 項目	みんなと学ぶ 小学校理科	11 学図
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元初めのページにつけたい能力が明確になっており、観察・実験では、手順について、写真や図を用いて示されている。また、単元末には、「やってみよう」や「ふりかえろう」の問題があり、学びを深められるように工夫されている。巻末には、記録の仕方や実験室の使い方、実験器具の扱い方などがまとめられており、復習できるように工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の流れが記載されている。また、問題解決の場面では、活動やキャラクター同士の対話などから、考える視点を明確に示し、思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫がされている。「活用学びを生かそう」では、学習したことをもとに話し合うことで、思考力、判断力、表現力等を一層育成することができるように工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予想の場面で、自分と異なる意見でも相手の立場になって考えることで、自分の考えが深まるような記述がある。また、「理科モンスター」を登場させ、その場面で身につけたい力をキャラクターで示している。さらに単元冒頭で身につけたい力を3つずつ示し、単元末で同じ観点で振り返ることができるように工夫されている。 <p>＜見通しをもって観察、実験を行うための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「科学の芽で育てよう」で問題解決の過程を示し、学んだことが次の問題につながるように工夫されている。また、それに合わせたノートのまとめ方が示されており、学習の流れをより意識できるように工夫されている。さらに、実験・観察の場面では、図や写真、表などを使ってわかりやすく提示されている。 <p>＜自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が問題を科学的に解決できるよう、理科の見方・考え方について、キャラクターの台詞によって明示されている。また、「問題をみつけよう」では、実際に同じ体験等を行うことで、児童の疑問を引き出す工夫がされている。さらに、同一の実験を複数回、または複数の実験方法で行う例が示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末に「実験器具の使い方」があり、一連の作業を細やかなステップに分解し、チェックしながら学習できるようになっている。また、タブレット等でQRコードを読みとることによって、動画でも確認できるようになっている。 ○「もっとしりたい」では、別の実験結果や現象を知ることができ、発展的な学習につながる。さらに、文章だけでなく動画でも確認できるようになっている。 ○巻末のQRコードを読み取ると、「かくにんテスト」に取り組むことができる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の流れの中で、フォントの大きさを変えている。 ○裏表紙に「もくじ」があり、1年間の学習内容がわかる。 ○モンスターのイラストと理科の見方・考え方、資質・能力をリンクさせることで、どのような力を育成するのかが明確である。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコードによる動画（実験・観察・実験器具の使い方）や巻末の「やってみよう」、「ふりかえろう」から、知識及び技能が習得されるようにするための工夫がなされている。 ○「理科モンスター」を登場させ、身につけたい力をキャラクターで示し、考える視点を明確にすることで、児童が科学的に問題解決できるよう工夫されている。 	

書名 項目	未来をひらく 小学理科	17 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○巻頭には、前の学年で学んだことが出てきて、復習することができるようになっていいる。各単元末には「確かめよう」の問題があり、科学的な言葉の確認をしたり説明したりすることで、単元で得た知識の確認と振り返りができるようになっている。また、「ふり返ろう」では、学習したことや新しく学習した言葉を確認・総復習することができ、知識の定着を図ることができるようになっている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○問題を見いだす場面や予想を立てる段階で、思考の手がかりになる会話が示されている。学年を通して育成する主な問題解決の能力の習得のために大切な言葉など、話し合いの場面で活用しやすくなっている。結果のまとめ方が児童のノート風に図や表で整理して掲載されている。話し合いを通して、予想・計画する児童の姿を表現しており、計画にもとづき、観察・実験を行い、予想を確かめるようになっている。扉写真では、児童の興味を高める事例を提示し、意欲的に学習を始められるようになっている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○単元ごとに主人公を設定し、友達と関わり合って学ぶ姿を表現している。現象の本質に迫り、身のまわりの事柄に当てはめて、深く学べる場面を設定している。登場人物の疑問や気づきから問題を見出したり、事象を提示したりしている。国語や算数との繋がりがわかるページがあり、教科横断的な学びに繋がりがやすくなっている。単元末には、学習前後の考えの変容を想起させる箇所があり、学びの変容を感じやすいようになっている。次の学びに向かう力につなげる工夫がされている。</p> <p>＜見通しをもって観察、実験を行うための工夫＞</p> <p>○観察や実験のやり方が、図や写真、表などを使って、わかりやすくまとめられている。実験や観察に必要なものをチェックする欄があり、手順がわかりやすく示されている。既習内容や自らの生活経験から、単元全体の見通しをもたせている。理科の見方や考え方の働かせ方が分かるように、登場人物の会話に下線を引くという工夫がされている。</p> <p>＜自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫＞</p> <p>○問題解決の過程に沿って学習が進められるようになっている。単元の冒頭にある「見つけよう」では、生活体験の中で課題を見つけることが難しい場合に、同様の体験をすることができるようになっている。</p>	
資 料	<p>○デジタル星座早見版を活用できる。事故の可能性のある観察や実験には、「キケン」のマークをつけ、配慮事項を示している。さらに、すぐに見ることができる裏表紙に、実験や観察の際の注意がまとめてあり、安全面の配慮がなされている。単元の初めに、繋がりのある他の単元や他学年の単元が示されている。</p>	
表記・表現	<p>○学習の中で出てくる重要な言葉を、太字とマーカーで強調している。また、カラーユニバーサルデザインにも配慮がされている。各学年の初めて出てくる漢字には、ルビがふられている。単語の途中で改行しないように工夫されていて、細部にまで配慮がされている。</p>	
総 括	<p>○実験器具の使い方の動画や単元末の「ふりかえろう」、「たしかめよう」から、知識及び技能が習得されるようにするための工夫がなされている。</p> <p>○理科の見方や考え方を働かせた登場人物の台詞に、カギマーク（「見方のカギ」・「考え方のカギ」）がついており、児童が科学的に問題解決できるように工夫されている。</p>	

書名 項目	わくわく 理科	61 啓林館
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元末の「まとめノート」では、その単元で学習したこと全体を、簡潔にわかりやすくまとめている。 ○ 「活用しよう」では、児童たちの身の回りにある題材を取り上げて問題としている。学んだことを活用して、身近な物事を科学的な視点でとらえ、考え、深い学びへと向かう構成になっている。 ○ 単元末の問題の解説動画がQRコードから見ることができ、ICTの活用をしながら知識や技能を習得できるようになっている。 ○ 「理科の広場」では、重要語句についてイラストや詳しい説明があり、確かな学力につなげる事ができる。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 登場するキャラクターが対話的に学びを深めていく様子が描かれている。また問いかけや児童たちの発言の例が随所に示されており、理科の見方・考え方や、問題解決の力が自然と伸びる工夫がなされている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主体性を生かした問題づくりのために、「問題」の前に「問題をつかもう」が設置されている。児童たち自身が考え、話し合っ「問題」を見いだす過程を具体的に示してある。また、わかったことから（まとめ）から新しい問題を見だし、深い学びへ向かう力を育む流れになっている。 ○ 身近な植物や動物の写真を載せることで、児童が単元に興味をもちやすいように工夫されている。また、単元末に「くらしとリンク」というコーナーがあり、実生活と学習内容を結びつけることができるようになっている。 <p>＜見通しをもって観察、実験を行うための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「理科の楽しみ方」で問題解決的な学習の流れを示し、学んだことが次の問題へつながるように構成されている。導入では、既習内容や生活経験との関連から、児童の疑問を引き出せるよう配慮されている。キャラクターのせりふが予想や計画、結果の見通しを考える際のヒントとなるように工夫されている。 <p>＜自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 導入や予想、計画では、児童が獲得した知識を適用させた考えについての全体の対話例が示されている。同一の実験を複数回、又は複数の実験方法で検証する例が示されている。考察では、対話例を通して視点が示され、「もっと知りたい」では、新たな問題を見いだすヒントとなる問いが示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「オッターの資料室」があり、理科に必要な技能をわかりやすく整理している。 ○ ワクビット（わくわく CBT チャレンジ）があり、映像を見ながら問題を解く練習ができる。 ○ QRコードから様々な資料を活用でき、ICTの授業（復習）にも使える。 ○ with the Earth など実生活に置き換え、自分たちにできることを考えさせるコラムがある。SDGs や STEAM を意識しやすいように、「わくわく SDGs」というQRコードがついている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理科ならではのダイナミックな写真や、興味深い話題がたくさん掲載してある。 ○ 「これまでの学習をつなげよう」では、複数の単元にまたがる学習内容が整理してあり、簡単に関連づけることができる。 ○ 安全マーク・注意マークが分かりやすく明示されている。 ○ 実験器具の設置の写真が大きく、児童にもわかりやすくなっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元末の「まとめノート」「たしかめよう」や巻末の「オッター資料室」や「ワクビット」から、知識及び技能が習得されるようにするための工夫がなされている。 ○ 理科の見方・考え方を働かせたキャラクターの台詞に下線が引いており、児童が問題を科学的に解決できるように工夫されている。 	

書名 項目	新編 新しい 生活	2 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「やくそく」「ちゅうい」マークや「かつどうべんりてちょう」などの文章があり、習慣や技能が身に付くよう構成されている。 ○家庭と連携しながら学習ができるように工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャラクター「まなびい」「ずかんちゃん」の吹き出しによる問いかけや、学習したことのまとめ方が多く例示され、児童の気づきを表現し考えることができるよう工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大判の教科書で、意欲的に楽しく活動する写真やイラストが多く掲載されている。「○○しよう」のような活動の促しがあり、見通しをもち、生活を豊かにしようとする態度を養う工夫がされている。 <p>＜具体的な活動や体験を通して気づきの質を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察カード、ICTの活用などの方法が多く掲載されている。 ○下巻の「学びをふかめる」コーナーでは、児童の気づきや友だちとの交流から深められた学びが示されていて、伝え合いや学びの具体的な姿が示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコードで、動画やクイズ、図鑑などが見られるようになっている。 ○巻末に「かつどうべんりてちょう」があり、生活科で学習する習慣や技能がまとめられていて、活動によって活用できるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○種や苗から実ができるまでの写真を教科書の端に種類ごとに分け、比較しやすいように提示している。 ○上巻頭の「すたあと」では、他教科につながる学びが提示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○随所に図鑑として活用できる写真をふんだんに取り入れ、また巻末にある「かつどうべんりてちょう」を使って自分で調べることができ、疑問に思ったことや興味のあることに自主的に取り組めるように構成されている。 	

書名 項目	新版 たのしいせいかつ	4 大日本
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○「がくしゅうどうぐばこ」のコーナーに、児童たちにとって大切な生活習慣や活動のアイデアなどがまとめられている。また、「やくそく」として安全に関わる知識なども、分かりやすく、簡潔にまとまっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○写真やイラストによって見通しをもって活動ができるようになっている。</p> <p>○児童が困ったときには、吹き出しに答えではなく活動のヒントが書かれており、考えを深めるための助けとなる工夫がされている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○写真やイラストが多く、児童が興味を持ちやすい。また、単元の終わりには、児童の思いや願いをもとに、次の活動へとつなげる工夫が見られる。</p> <p><具体的な活動や体験を通して気づきの質を高めるための工夫></p> <p>○友達とのやり取りや、クラスでの話し合いの場面がたくさんあり、児童が他者と対話的な学び、協働的な学びをしながら、考えを深めていったり、広げていったりする具体的な例が示されている。</p>	
資 料	<p>○QRコードでは、動画、友達の作り方、図鑑などが見られる。</p> <p>○本文中、巻末に「がくしゅうどうぐばこ」がある。そこでは、学習の仕方や、学習を生かした活動、そのほかにも様々な資料が掲載されている。</p>	
表記・表現	<p>○教科書中に書き込めるようになっている箇所が多く、教科書を見ながら活動もできる。</p> <p>○気持ちマークによって、低学年でも学習の振り返りがしやすくなっている。</p> <p>○UDフォントを使用するなど、誰にでも使いやすいよう配慮されている。</p>	
総 括	<p>○教科書に書き込む箇所が多くあり、ピンゴカードなどもついていて、教科書があれば活動できる单元も多いように作られている。</p> <p>○「せいかつことば」などの身につけさせたい言葉を、しっかりとコーナーとして明記していて、落とさず指導が可能である。</p>	

書名 項目	しょうがっこう せいかつ	11 学図
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○巻末に配置されている「せいかつかまなびかたずかん」では、観察の仕方や発表の話し方、聞き方など活動の基礎となる内容が活動ごとに示されており、児童の実践につながるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○写真やイラストに吹き出しや、児童の学習カードの例示があり、児童の思考を深めたり、広げたりできるような工夫がされている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○「ものしりノート」で具体的な活動を示すとともに、「もっと」で活動をさらに広げ、児童が意欲的に取り組めるよう構成されている。</p> <p><具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫></p> <p>○単元の扉で児童の楽しそうな活動の様子を大きな写真で掲載し、活動への意欲付けが図れるよう工夫されている。</p> <p>○友達と話し合い、対話的な活動ができるように工夫されている。また、振り返りについて、多様な表現が例示されており、児童たちが振り返りしやすいように工夫されている。</p>	
資 料	<p>○QRコードでは、動画、図鑑などが見られる。</p> <p>○子どもたちの主体的な活動を支援する「ものしりノート」や「ものしり図かん」などの資料ページが充実しており、もの作りや記録など子どもが自分で活動を広げていけるよう配慮されている。</p>	
表記・表現	<p>○单元ごとにメインキャラクターを設定し、ストーリー化を図っている。</p> <p>○課題となる言葉の表現が、子供の言葉に近い。</p>	
総 括	<p>○全单元を通して、キャラクターや写真によって子どもたちが意欲的に活動している様子を取り上げられている。また、振り返りの場面が充実しているので、子どもたちが自身の成長やよさに気付けるように配慮されている。</p>	

書名 項目	せいかつ	17 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「やくそく」や「ヒント」では、活動に即したポイントが示されている。「学びのポケット」の該当ページ紹介もある。 ○小単元「さいころ」で、めあてをもって学習に取り組むことができる。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真やイラストに吹き出しや、児童の学習カードの例示があり、児童の思考等を助ける工夫が見られる。 ○各単元の中に「ヒント」があり、活動の幅を広げ思考を助ける工夫がされている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元導入の「わくわくスイッチ」や単元を貫く「はっけんロード」、試行錯誤を促す「かんがえまとめいろ」、振り返り時の「ぐんぐんはしご」などの工夫が見られる。 <p>＜具体的な活動や体験を通して気づきの質を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○上下巻を通して、二人の児童と教師が活動する様子が掲載されていて、身近で安心して取り組めるように工夫されている。 ○表現方法として、学習カードや新聞、ポスターや手紙など多くの方法が示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコードでは、動画、ワークシート、図鑑などが見られる。 ○巻末に「学びのポケット」があり、他の教科とつなげながら学びを進めることができる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○「はっけんロード」では、学習の連続性が意識されている。 ○イラストや写真の中に外国籍の児童や車椅子の児童が載っていて、インクルーシブ教育やユニバーサルデザインに配慮されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいが分かりやすいように、見出しが配慮されていたり、生活科で学ぶ力がサイコロの表示で示されたりしている。 ○幼児期から親しんでいる絵本で、生活科のイメージを膨らませる工夫がされている。 	

書名 項目	せいかつ たんけんたい	38 光村
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○安全に関わる内容、着目してほしいことなど、それぞれがイラストや写真でわかりやすくまとめられており、児童の気づきを助ける構成になっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○ヒントや振り返りの観点がしっかりと明記されており、児童の思考を助けてくれる。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○イラストで児童が考えるであろう疑問などが示されており、意欲的に学習できるようになっている。</p> <p>○学習を毎日の生活に繋げていく構成になっている。</p> <p><具体的な活動や体験を通して気づきの質を高めるための工夫></p> <p>○写真やイラストが豊富にあり、児童が意欲的に活動に取り組めるような工夫がされている。</p> <p>○児童が、思考したり表現したりしやすいように例が示され、対話的な活動が行いやすくなる工夫がされている。</p>	
資 料	<p>○QRコードでは、動画やアニメーションなどが見られる。</p> <p>○上巻末に切り離して使える「きせつのなかまたち」、下巻には小冊子で「ひろがるせいかつじてん」がある。</p>	
表記・表現	<p>○見開きの構成が決められており、左上に課題、右下にふりかえりのポイントというように、児童にも活動の流れを意識させやすい工夫がされている。</p>	
総 括	<p>○絵本作家の親しみやすいイラストや実際の写真が豊富にあり、児童の関心を高めてくれる。</p> <p>○観点がしっかりと明記されていたり、それぞれのコーナーの場所が定まっていたりして、扱い方が身につけやすい構成になっている。</p>	

書名 項目	せいかつ	61 啓林館
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「がくしゅうずかん」では、基本的な学習活動の内容が分かりやすく示されている。 ○「びっくりずかん」では、季節ごとの行事や植物などを知ることができるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真やイラストに吹き出しや、児童の学習カードの例示があり、児童の思考等を助ける工夫が見られる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「できるかな できたかな？」で、学習の振り返りの視点を例示している。 ○単元末の「ぐんぐん」では、学習を振り返り、児童が自らの成長や深まりを実感できるよう工夫されている。 <p><具体的な活動や体験を通して気づきの質を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「わくわくタイム」では、児童に直接働きあけるような言葉が掲載されていて、児童の気づきを助けるよう工夫されている。 ○写真やイラストを使って、グループやクラスで伝え合う方法が分かりやすく示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコードでは、動画、スライドショー、ウェブリンクなどが見られる。 ○上下巻末に「がくしゅうずかん」、上巻頭に「すたあとぶっく」、下巻末に「3年生へのステップブック」がある。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○紙面右下に「めくり言葉」があり、児童の思考の連続性を促す。 ○教科書がAB版で作られ、低学年児童にとって取り扱いやすい。 ○ページの右下に次に進むための一言が書かれている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○単元が「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階で構成されていて、流れが分かりやすく示されていて、活動を連続させながら、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されている。 	

書名 項目	音楽のおくりもの	17 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○領域・分野ごとに系統的に題材が配列され、学習事項の確認ができるように見開きごとに「学習のめあて」や音楽を形づくっている要素「音楽のもと」が示されている。 ○歌唱では、拍感やリズムのスキルを定着させるような教材が掲載されており、器楽では、多くの写真やイラスト用いて双方を示したり、音楽あそびから学び進められたりするよう工夫されている。新しい指使いなどは写真で示されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「まなびナビ」で、児童たちの見通しを持たせ、「学び合う音楽」で学び方を例示している。児童の気づきや思いを引き出すような発問例が示され、児童が深い学びへとつなげられる工夫がされている。 ○「音楽を表すいろいろな言葉」が設けられ、児童が思考を深める助けとなったり、音楽を捉えて伝え合う手立てを増やしたりできるように工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年間の学習の見通しを持つことができる。「学習マップ」「学習の進め方」や1年間の学習を振り返ることができる『「音楽のもと」まとめ』が設けられ、児童が主体的に学習に望むことができるように工夫されている。 ○児童が音楽科の学習で得た音楽経験や知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるように生活の中にあるさまざまな音や音楽への関心を促す教材や特集が掲載されている。 <p>＜生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「音のスケッチ」などで思いや意図を生かして音楽を作ることができるように、文字やイラスト、活動例が掲載され、児童の考えを引き出すように工夫されている。 ○我が国の伝統的な楽器や民謡、諸外国の音楽などの多様な曲種の鑑賞や表現を通して、生活と音楽の関わりについて考え、多様な文化に触れることができるように配慮されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○教材に合わせた写真（折込を使ったワイド紙面）や学習内容に沿った図やイラストが使用され、視覚的に理解しやすいように工夫されている。 ○QRコード（まなびリンク）が示され、学習に対応した資料がWEB上に用意されており、主体的に学べるように工夫されている。 ○高学年では、持続可能な社会のために音楽を通じて何ができるかを考える題材にSDGsマークが示されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の発達段階に応じて楽譜や文字の大きさが配慮されている。 ○線や図形などを楽譜に見立てて表現できるような資料が掲載されている。 ○音符や休符、記号などは各教材の別枠に示されているほか、巻末にも掲載されている。 ○歌唱や器楽が同時に表現される楽曲において複数段で示されるとき各段にパート名や楽器名が表示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の興味関心を高められる幅広い楽曲が選曲されている。また、線や図などを楽譜に見立てたりスコアが掲載されていたりすることにより、音楽の構成を視覚的に捉えられ、深い知識につながる工夫がされている。さらに、題材の配列が工夫され発展的に学習を進めることができ、各学年での学びの積み重ねから、多様な音楽を幅広く身につける工夫がされている教科書である。 	

書名 項目	小学生の音楽	27 教芸
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○領域・分野ごとに系統的に題材が配列されており、学習事項の確認ができるよう見開きごとに「題材のねらい」や音楽を形づくっている要素が示されている。 ○歌唱、器楽ではイラストや写真で視覚的に働きかけ、その都度確実に双方を身につけて学び進められるように工夫されている。新しい指使いなどはイラストで示されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考える」「見つける」「歌う、演奏する、つくる」のアイコンが示され、児童が思いや意図をもって表現や鑑賞の授業が進められるように工夫されている。 ○児童の作品例や考え方の例が吹き出しで示され、児童が表現に対して思いや意図をもったり、音楽や演奏のよさを味わいながら聞いたりすることができるように配慮されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年間の学習の見通しを持つことができる「学習マップ」や1年間の学習を振り返ることができる「ふり返りのページ」が設けられ、児童が主体的に学習に臨むことができるように工夫されている。 ○児童が音楽科の学習で得た音楽経験や知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるように、生活の中にあるさまざまな音や音楽への関心を促す教材や特集が掲載されている。 <p>＜生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「音楽づくり」で思いや意図をもって表現できるように、学習の手順や工夫の視点がアイコンや吹き出しなどで示され、児童の考えを引き出すように工夫されている。また、書籍内にワークシート例が示され、児童が考え方をまとめやすいように工夫されている。 ○体験型の鑑賞学習や調べ学習のための資料が掲載されており、我が国や諸外国の音楽の表現や鑑賞を通して、多様な文化にふれることができるように配慮されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○学習活動のポイントが色の濃淡やイラスト、写真（撮影場所を明記）により区別・説明されているため、視覚的に理解しやすいように工夫されている。 ○QRコード（ムーブの部屋）を読み取ることによって、音源や資料を活用でき、個別最適な学びをサポートできるように工夫されている。 ○鑑賞教材で扱われる楽器や演奏法、コラムなどが見開きで示され、学習する際の手立てとなるよう工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の発達段階に応じて楽譜や文字の大きさが配慮されている。 ○線や図形などを楽譜に見立てて表現できるような資料が掲載されている。 ○音符や休符、記号などは「がくふマスター」に示されているほか、巻末にも掲載されている。 ○色覚特性など多様な状態にある子どもたちが等しく学習を進められるよう、イラストの色調やデザインを工夫し、UDデザインを全編に使用している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の発達段階に合わせたわかりやすく取り組みやすい楽曲が選曲されている。 ○また、QRコードを活用し、紙面上の楽譜や図形楽譜に対応する音源を聞くことにより、児童の深い知識につながる工夫がされている。さらに、ワークシートや学習の進め方が丁寧に示されており、児童も指導者も見通しをもって学習活動に取り組むことができる教科書である。 	

書名 項目	図画工作	9 開隆堂
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各題材での動画のコンテンツ（導入の動画、用具の使い方、ワークシート等）が充実しており、学びの資料、きり、かなづちなどの使い方を動画で振り返ることができる。 ○巻末に学年相当の基礎的な表現・技法がイラストや写真で説明していたり、全学年にタブレット端末での活用法が示されていたりする。 ○普段では使わないような材料を用意して行う題材が多く、そこから、新しいスキルと出会うことができる。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の作品に作者の言葉があり、製作途中の児童のつぶやきが吹き出しで表現されている。 ○用意する材料が丁寧に示されているので思考力、判断力等につなげやすい。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生の教科書は、図工の授業がはじまる、幼小をつなげるスタートプログラムになっている。 ○共同的に行う題材が多く、みんなで飾って興味・関心を高められるものが多い。また「外国の友だちの絵」や「小さな美術館」など、いろいろな作品に触れられ、どれも皆で話し合っって鑑賞し、考えを深め合うことができる。 ○「小さな美術館」のページで重点的に取り扱いがある。（1・2下：1「自然の材料や形や色、さわり心地を感じ取る。」5・6下：2「バランスを工夫した表現のよさを味わう」「作品の味方や考え方を深め、自分の表現に取り入れることについて考える」） <p>＜用具の安全な取り扱いについて指導するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材の所々に安全のマークをつけて注意箇所を表記しており、どの場面で注意すべきか明瞭であり、危険な例も具体性を帯びている。（例：1学年はさみの使い方） 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科書に掲載されている写真数は、1・2年上：児童作品98 日本児作家2、1・2年下：児童作品102 日本人作家3、3・4年上：児童作品123 日本人作家5、外国人作家4、3・4年下：児童作品96 日本人作家7、外国人作家5、5・6年上：児童作品102 日本人作家3、外国人作家8、5・6年下：児童作品120 日本人作家14、外国人作家6、各学年その他にQRコードで273点掲載されている。 ○児童作品にナンバリングされていて授業で子供たちに説明する時に便利である。 ○作品一つ一つの写真が大きく、作品事例が豊富であり、用意する用具、材料等が具体的に書かれており、家庭で準備する際に分かりやすい。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○表題が「ずがこうさく」ではなく、「わくわくするね」などの各学年のテーマが示されている。 ○低学年は字が大きく見やすく、題材名は様々なフォントを使用しており、児童たちがイメージし、興味・関心を高める言葉（例：「～たんけんたい」「～ワールド」など）を使っている。 ○SDGsに関する取り組みが作品に盛り込まれている。 ○意欲が高まる導入の動画（キャラクター）作品が豊富である。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○身に付けさせたい資質・能力（ねらい）と関連付けられた振り返りが記されており、埼玉県教育課程の理念である「指導と評価の一体化」に則っている。 ○「あわせて まなぼう」の部分では教科横断的な視点が入っており、内容が明示されているのでカリキュラムマネジメントがしやすい。 	

書名 項目	図画工作	116 日文
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○動画コンテンツで用具の使い方、材料の用意などについての解説がある。 ○巻末に、まとめて基礎的な技法の紹介がされており、そこから新しいスキルと出会う工夫がされており、学習のめあては各題材で2つずつあり、分かりやすく示されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○コマドリ動画やアートカードなどのWeb アプリ、QR コンテンツが豊富である。 ○立体、工作では全体写真の他にポイントを拡大し、工夫がよく分かる写真もある。 ○鑑賞のヒント、めあてのヒントで作品づくりのポイントがわかり、造形的なよさ、面白さについて考えられる。 ○Web アプリが豊富で発想や構想の手助けとなっている。使用する道具の示し方がデザイン的で類似色でまとめられておりシンプルで見やすい。また、製作に使用する材料が示されていないので、児童が材料集めに戸惑うかもしれないが、教科書資料から読み取って主体的に自分で探す力がつくかもしれない。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習の目当て」で分かりやすい言葉で説明されている。 ○鑑賞教材の他に、「図工のみかた」という発想に悩む児童や各題材の導入場面に応用できるヒントページがところどころにある。 <p><用具の安全な取り扱いについて指導するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ページの下に「気をつけよう」の欄があり、題材ごとに固定されている。 ○巻末の用具の説明の項目で、良い例とともに、失敗例も提示しており、具体的である。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科書に掲載されている写真数は、1・2年上：児童作品70、がいこくのともだちの絵1、1・2年下：児童作品64、がいこくのともだちの絵1、3・4年上：児童作品64（作品の大きさが示されているものをカウント）、日本人作家5、外国人作家1、3・4年下：児童作品72、日本人作家11、外国人作家4、5・6年上：児童作品94、5・6年下：児童作品111である。 ○Web 上に児童の作品例が掲載されている。また、作品の拡大部分と活動の様子の写真が多い。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○題材名がオーソドックスな表現で1学年から6学年までフォントの多くがゴシック体である。教科横断的な視点は書かれているが、どの部分でつながるのが自ら思考させるツールである。 ○自分でもやってみたい、作りたい、できそうだと思うせ、児童たちに自信をもたせる作品が多く掲載されている。 ○SDGs はデザインとしての紹介である。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT のアプリが充実している。自ら考えさせる場面がとても多い。 ○製作活動に入る前の疑問の詳細な投げかけや、身に付けさせたい資質（知識・技能や思考・判断・表現）等の表記は必ず5つあり、言語が充実している。また、振り返りはどのような気持ちになったか等、問いかけ、自ら主体的に考えさせる振り返りが多い工夫がされている。 	

書名 項目	新しい家庭	2 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「できたかな」のコーナーを設け、学習した内容をふり返し、達成度や新たな課題に気づける構成になっている。 ○巻末に「いつも確かめよう」があり、調理実習技能や製作実習技能について困ったことがあったらすぐに確認できるようになっている。 ○どの題材でも学習に関連した情報を多く載せ、知識や技能の定着が図れるようにしている。 ○単元の最初に課題を見つけるための話合いが設定されており、探究的に学習を進めることができる。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4つの視点の中から、主に考える視点を題材の始めに提示することで、見通しを立てて学習に取り組むことができるようになっている。 ○成功例や失敗例をグラフや例示、写真で掲載し、その写真を活用しながら児童の思考を深めたり、表現したりできる。 ○「1 課題発見(見つめよう)→2 課題解決・実践活動(計画しよう・実践しよう)→3 評価改善(生活に生かそう・新しい課題を見つけよう)」の流れで学習が進み、さらにどの部分を学習しているかがマークで表示されていることで、児童自身が今何を学習しているかを意識しやすいようになっている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「家庭科の窓の効果」はよりよく考える力を育てるのに有効である。どうやってその力を付けていくのかなど、見方や考え方の指針になる。 ○多くの題材に「いつも確かめよう」という見出しがついており、その題材でのメインとなる活動の流れが記載されている。このことにより、学習に見通しをもって取り組むことができる。 ○成長の記録のページがポートフォリオの役割を果たしている。学習の見通しや積み重ねを実感することができる。 ○巻頭の「いつもたしかめよう」で常に安全面について確認したり、巻末資料を活用したりしながら、児童の意欲を高めることができる。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真、イラスト、QR コードが豊富で、動画の資料や学習に使うワークシートをみることができ、思考ツールも活用できる。 ○活動の中で知識と技能が身につくように細かく活動が設定されていて、活動のポイントや例も丁寧に載っている。 ○「活動」「資料」では、その題材において考えさせたいことや指導事項が取り上げられていて、より主体的に学習を進めやすい工夫となっている。 ○「プロに聞く」では、その道で活躍している人の言葉で思いや考えが書かれており、学習したことが社会とどう結びついているかがとらえやすくなっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○難しい言葉の説明書きがあったり、児童に気づかせたい内容を吹き出しに疑問文として記載したりされている。 ○めあてがそれぞれの小見出しとリンクしていて分かりやすい。 ○感染症について、食物アレルギー、災害時の行動など、現代社会に対応した表記があり、生活に密着して考えられる。 ○表紙に多様な生活スタイルが表現されている(人種・性別・障がい・家庭と地域のつながり)。 ○カラーユニバーサルデザインに配慮した色使いで項目分けし、わかりやすいマークを活用するなど学ぶところを整理していて、見通しが立てやすい。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な視点からの資料が豊富で、実際に見たり体験したりできなくても教科書から学び取れるように工夫されている。 ○児童の思考にあった学習の流れで題材が構成されている。 	

書名 項目	わたしたちの家庭科	9 開隆堂
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○QR コードが奇数ページほぼ全部に掲載されていて、教科書の内容に関連するコンテンツを参照することができる。動画や資料などもスピードを調整しながら見ることができ、学習内容をよりわかりやすくしている。 ○「できたかな」のコーナーで、その題材で身につけるべき知識や技能がわかりやすくなっており、達成度や新たな課題に気づける構成になっている。 ○衣服・食生活・住居・消費などの分野が細かく分けられ、5・6年それぞれにバランスよく配当されている。 ○P136 に中学校での学習が記載されており、小学校での知識がどのように中学校で生かされているのかを知ることができる。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材のおわりに「学習をふり返ろう」のコーナーを設け、学習の始めにある「学習のめあて」をチェックするよう促している。そのことで、めあて～ふり返りの整合性のある学習が進められるようになっている。 ○ワークシートや教科書に書き込めるスペースの種類が豊富で、必要に応じて教員が授業で取り入れやすい。 ○①気づく・見つける（見出しが問いかける形式＝児童が考えながら学習していける）→②わかる・できる→③生かす・深めるの3つのステップをくりかえしながら 実際の生活に生かせることを目指すという、分かりやすい構成になっている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学んで変わるよ わたしたち」では、これまでとこれからについてできることが増えてきていることや、他教科との関連などを示し、家庭科学習の見通しを持つことができるようになっている。 ○学習で身につけたことをもとに、疑問や探求したいこと、できるようになりたいことなどを「生活の中の課題」として例示し、生活をよりよくできるよう実践につなげていく工夫がなされている。 ○生活の見方・考え方の4つの視点のなかで、その題材で関連が深いものを学習の始めに提示し、より意識して生活を見つめることができるようにしている。 ○単元の構成が日常生活に即している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真、動画の資料が豊富で学習内容に適切にレイアウトされている。 ○「キャリアインタビュー」では、その道のプロの話を掲載し、学習していることが社会とどのようにつながっているのかがイメージしやすくなっている。 ○調理や片付けの過程が分かりやすく、洗濯表示や食品表示など知識を活用して読み取ることができるなど、実生活で活用できる情報が載っている。 ○巻末に安全・防災コーナーや実習に役立つワンポイント調理編・実習編があり、必要に応じてすぐに確認したり、学んだことを生かし考えられるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○目次が項目ごとに色分けされており、5・6年の学習項目の関連が理解しやすい。 ○教科書の文章が精選されていて、全体的に文章量が少なく、大事なところを太字で表記したり、「豆知識」で取り上げたりしている。 ○年齢・性別・国籍などで多様化した社会を表現したり SDGs や「持続可能な」などの言葉で社会に目を向けさせたりしている。 ○カラーユニバーサル視点による配慮やユニバーサルデザインフォントの採用により、個人差を問わずにできるだけ多くの児童が見やすく読み間違えにくいようにしている。 ○安全や環境などについて、教科書の中で別枠で囲い、マークで提示している。部分的に取り出すことで、より意識しやすいようになっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○レイアウトが見やすく、分量が学習内容に対して適量である。 ○題材の構成が細分化されており、かつ今の時代に必要な視点（多様性・環境への配慮等）に重点を置いている。 	

書名 項目	新しい保健	2 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領に示された学習内容が本文にまとめられており、大切な部分が太字で記述される等、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるように工夫されている。 ○各項の内容が主体的・対話的で深い学びとなるよう、ステップ4「気づく・見つける」→「調べる・解決する」→「深める・伝える」→「まとめる・生かす」で構成されており、ステップ4では学習の要点を整理する等、基礎的・基本的な内容が習得できるように工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「調べる・解決する」では、課題の解決に向けて、情報を集めたり、調べたり、話し合ったりする活動を通して、考えを深められるように工夫されている。 ○「深める・伝える」では、学習したことを基に、他の事例や自分の生活と関連付けて考える記述欄があり、それらを踏まえて他者と伝え合えるように工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各項の2ページ目の冒頭で「学習の課題」が明示されている。課題を明確にすることで、「学習の課題」をより自分のこととして捉え、学びに向かえるように工夫されている。 ○章末のQRコンテンツ「学習をふり返ろう」では、学習を終えて、もっと知りたい、調べたいと思ったことを書く欄が設けられ、さらなる学びへの意欲を喚起するように工夫されている。 <p>＜健康・安全についての理解を深めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習を広げたり、深めたりする「資料」や「まめちしき」、「解説」のコーナー、個別最適な学びに適したデジタルコンテンツがあり、理解を深めるための工夫がされている。 ○生活と関連付ける「深める・伝える」や自分の生活やこれからの学習に生かす「まとめる・生かす」のコーナーがあり、実践的に理解を深めるための工夫がされている。 <p>＜生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック・パラリンピックアスリートの紹介やスポーツの意義を示す資料を掲載する等運動と健康について考える工夫がされている。 ○中学校の内容を「はってん」の中に資料として掲載し、小中学校の学習内容を系統的に指導できる工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入に身近な生活や自分の経験を振り返って考える活動が大きな写真とともに掲示され、児童の意欲を喚起するように工夫されている。 ○グラフや写真、挿絵、QRコード、漫画、キャラクターの吹き出し等の資料を通して、児童が理解を深めることができるように工夫されている。 ○思考・判断したことを表現する記入欄や、学習をまとめる記入欄等、評価を行う手掛かりとなる場面が設定されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1単位時間の学習内容が、導入1ページ、学習内容見開き2ページ、まとめ1ページの合計4ページでまとめられている。 ○ユニバーサルデザインの視点から、文章では読みやすさに優れたユニバーサルデザインフォントを使用したり、配色では紙面の色数を限定して落ち着いたレイアウトにしたりしている。 ○共生社会の形成に向けた視点から、学習内容と関係するSDGsの目標を記載したり、思春期にあらわれる変化について配慮した表現したりしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決的に学習を進める中で、基礎的・基本的な学習内容を理解できるよう紙面の構成が工夫されている。 ○事例について原因を探求・分析したり、資料を基に思考したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力等が育成できるように工夫されている。 ○学習課題を明確にし、振り返りを充実させることで、学びへの意欲を喚起するように工夫されている。 ○オリンピック・パラリンピックアスリートの言葉や運動に関する資料、中学校への接続を考えた発展内容等を掲載しており、児童が生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成できるように工夫されている。 	

書名 項目	たのしい保健	4 大日本
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領に示された学習内容が本文にわかりやすい言葉で明示されており、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるように工夫されている。 ○各項の内容が主体的・対話的で深い学びとなるよう、「課題を掴む」→「課題解決のための活動」→「まとめ」→「活用」で構成されており、また各単元末に学習内容を振り返りながら確認できる問題を設定する等、基礎的・基本的な内容が習得できるように工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考えよう・調べよう・話し合おう」では、課題解決学習を通して、思考し、文章や発話で他者に伝え、多様な考えを聞き、学習を深めていくことができるように工夫されている。 ○「活かそう」では、学習したことを生活に活かすことができるような問いかけがあり、自分の考えを表現できるように工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○口絵では、学習の見通しをもたせるとともに、児童が保健を学習する重要性を理解し、自分のこととして捉え、主体的に学習に取り組む態度が養われるように工夫されている。 ○導入の活動「つかもう」では、児童に身近な題材を取り上げ、自分の生活について振り返ったり、考えたりする活動を通して、意欲的に取り組めるように工夫されている。 <p>＜健康・安全についての理解を深めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の助けとなる資料「もっと知りたい」や「ミニちしき」のコーナー、保健の見方・考え方を働かせるための読み物があり、理解を深めるための工夫がされている。 ○学習内容を確認できる「○年のまとめ」、毎日の生活でいかす「活かそう」や「家・地域でほけん」のコーナーがあり実践的に理解を深めるための工夫がされている。 <p>＜生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭でアスリート等の「夢と健康」についての紹介を行ったり、運動の例を示した資料を掲載したりして、運動と健康について考える工夫がされている。 ○中学校の内容を「はってん」として掲載し、中学何年生で学習するかを示すことで中学校への接続が図られている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入に「学習ゲーム」が提示され、QRコードを読み取ることで、動画等で詳しい内容を知ることができ、児童の意欲を喚起するように工夫されている。 ○グラフや写真、イラスト、学習の思考を助けるキャラクター等の資料により、児童が理解を深めることができるように工夫されている。 ○思考・判断したことを表現する記入欄や、各単元末の学習のまとめ、「楽しい保健ウェブ」で毎時間の学習内容を振り返る等評価を行う手がかりとなる場面が設定されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元 導入に簡単な「学習ゲーム」が見開き2ページで掲載され、1単位時間の学習内容が見開き2ページにまとめられている。 ○持続可能な社会の実現に向けた視点から、共生社会の形成についての身近な例を掲載したり、学習内容と関係するSDGsの目標を記載したりしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決的に学習を進める中で、基礎的・基本的な学習内容を理解できるよう紙面の構成が工夫されている。 ○学習したことをもとに、自身の考えを記述したり、他者と対話したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力等が育成できるように工夫されている。 ○自己の生活から課題を見だし、学習課題を明確にすることで、主体的に学習に取り組む態度は養われるように工夫されている。 ○アスリート等の「夢と健康」についての話や、運動に関する資料、中学校との接続が示された発展内容が掲載されており、児童が生涯にわたって健康を保持増進する資質能力を育成することができるように工夫されている。 	

書名 項目	新 小学校保健	50 大修館
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領に示された学習内容が本文にまとめられており、大切な部分が太字で記入される等、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるように工夫がされている。 ○各項の内容が主体的・対話的で深い学びとなるよう、「課題をつかむ」(主体的)→「課題解決活動」(対話的)→「まとめ」(深い学び)の3ステップで構成されており、毎時間の最後にはほけんクイズ(QRコード)を用意するなど、基礎的・基本的な内容が習得できるように工夫がされている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身近な生活における健康課題に目を向けさせる発問を設定し、保健の見方・考え方を働かせて思考できるように工夫がされている。 ○毎時間の学習の最後に設けた「まとめ 生かそう・伝えよう」では、これからの生活にいかしたいこととその理由を記述する欄を設け、学んだことを自己の生活と関連付ける工夫がされている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の最後の「学習をふり返ってみよう」では、児童自身が、自分の生活を見直すなどして、自己の課題について主体的に考えられるように工夫がされている。 ○「生活の中の保健をさがそう」では、保健の学習が身近な生活の中と関連していることに気づかせることで、自分の健康や安全に進んで取り組む態度を養えるよう工夫がされている。 <p>＜健康・安全についての理解を深めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○思考を広げる「まとめ」や、学習したことを現在や将来の生活に生かす「学習をふり返ってみよう」のコーナーがあり、実践的に理解を深めるための工夫がされている。 ○1時間の中に「考えよう」「話し合おう」「生かそう伝えよう」の構成がされており、対話的な活動を促し、理解を深めていく工夫がされている。 <p>＜生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「体育の窓」を中心に、運動領域の学習内容を取り上げたり、スポーツ選手の言葉から健康の大切さについて学ぶページがあったりと工夫がされている。 ○中学校の内容を「はってん」の中に資料として掲載し、小中学校の学習内容を系統的に指導できるように工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入に、これから学習する概要を、写真やキャラクターの吹き出しとともに掲載し、学習意欲を喚起するように工夫がされている。 ○グラフや写真、イラスト、キャラクターの吹き出し等の資料により、児童が理解を深めることができるように工夫がされている。 ○思考・判断したことを記入する欄や、学習のまとめを記入する欄、QRコードを読み取り、保健クイズをする等、評価を行う手掛かりとなる場面が設定されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○各項では学習の進め方を示した3つのステップが示され、概ねの1単位時間の学習内容が見開き2ページにまとめられている。 ○ユニバーサルデザインの視点から、読みやすさに優れたユニバーサルデザインフォントを使用したり、カラーユニバーサルデザインをふまえた配色にしたりしている。 ○児童の健康・安全をめぐる今日的課題への対応の視点から、発展として「新型コロナウイルス」「防災教育」「がん教育」などの記述がされている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決的に学習を進める中で、基礎的・基本的な学習内容を理解できるよう紙面の構成が工夫がされている。 ○学習したことを基に、自身の考えを記述したり、振り返りを記述したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力等が育成できるように工夫がされている。 ○自己の生活から課題について考えることで、主体的に学習に向かうことができるように工夫がされている。 ○写真、イラスト、デジタルコンテンツが充実しており、視覚的に健康・安全についての理解を深める工夫がされている。 	

書名 項目	新わたしたちの保健	207 文教社
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各項の内容が主体的・対話的で深い学びとなるよう「課題をつかむ」→「課題解決のための活動」→「まとめ」→「活用」で構成されている。 ○児童の意識の流れがスムーズにいくよう学習課題に順序性をもたせる等、基礎的・基本的な内容が習得できるように工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「もう一步先の自分へ」では、学習したことのまとめや自身の健康課題への解決方法や今後の生活でいかしたいことを思考し、記述できるように工夫されている。 ○「わたしの○○宣言」では、学習したことを基に、何ができるのか、自分にはどんな方法が適しているのかを理由を付けて記述し、話し合いながら考えを深められるように工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「本時のメニュー」で見通しをもたせ、「ミッション」（学習内容）と「ステージ」（学習活動）で1時間の授業が構成されており、児童が意欲的に取り組めるように工夫されている。 ○単元末の「エピソード」や「もっと考えよう課」では、学習に関連する情報や、より深く考える内容が紹介されており、児童がさらなる学びへの意欲を喚起するように工夫されている。 <p>＜健康・安全についての理解を深めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習したことをもとに、もっと深く考える「もっと考えよう課」や「発展」のコーナー、情報のリンク先「もっと知っとこう課」があり、理解を深めるための工夫がされている。 ○これからの自分の課題を考える各項のまとめ「もう一步先の自分へ」や、各単元のまとめ「わたしの○○宣言」のコーナーがあり、実践的に理解を深めるための工夫がされている。 <p>＜生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元末の「わたしのけんこう宣言」、「わたしのすくすく宣言」等で、運動と健康を関連付けた目標が記述できる工夫がされている。 ○中学校の内容を「発展」の中に資料として掲載したり、巻末にアスリートからのメッセージを掲載したりして、系統的に指導できる工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入に、課題を見つけてこれからの学習の見通しをもつための動機付けページが掲載され、児童の学習意欲を喚起するように工夫されている。 ○グラフや写真、イラスト、学習の思考を助けるキャラクター、「Episode」等の資料により、児童が理解を深めることができるように工夫されている。 ○「発展」を中心に「感染症の対応」、「防災」、「熱中症」等多くの今日的な課題を取り上げたり、QRコードを読み取って関連機関から情報を得られたりする等の工夫がされている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入では「動機付け」が2ページで掲載され、1単位時間の学習内容が、写真・イラストを中心に2ページか4ページでまとめられている。 ○イラストを中心としたレイアウト、学習の思考を助けるキャラクターや説明が多く取り入れられ、学習内容を理解しやすくする工夫がされている。 ○ユニバーサルデザインの視点から、書体や文字の大きさ、色に配慮し、レイアウトを含め、読みやすくわかりやすいものになるように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を明確にし、課題解決的な学習を進める中で、基礎的・基本的な学習内容を理解できるよう紙面の構成が工夫されている。 ○学習したことを基に、記述したり発表したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力等が育成できるように工夫されている。 ○学びを助けるためのキャラクターの説明等、児童が興味・関心をもって学びに向かえるような情報が掲載されている。 ○これまでの学習を振り返り、実生活に生かす等健康安全について理解を深める工夫がされている。 	

書名 項目	小学保健	208 光文
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領に示された学習内容が本文にまとめられており、大切な部分が文頭の★マークや太字で示されている等、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるように工夫されている。 ○各項の内容が主体的・対話的で深い学びとなるよう「生活を振り返る」→「課題をつかむ」→「課題解決のための活動」→「まとめ」→「活用」の5段階で構成されており、また各章末に「学習のまとめ」を設ける等、基礎的・基本的な内容は習得できるように工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを書いたり、話し合ったりする活動、学んだことを実践する活動を通して、考えを広げたり、深めたり、新たな気づきを得て、解決策を見いだせるように工夫されている。 ○「学んだことを活かそう」では、自分の生活を振り返って見直す活動を行い、実生活において学んだことが活かせるように工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の扉に学習内容のイメージがつかめる漫画を掲載したり、単元冒頭にて自分の生活を振り返った上で課題を確認したりすることで、学習意欲を高められるように工夫されている。 ○各単元末の「学んだことを生かそう」で、学習内容を自分の生活にいかす視点を用意することで、児童が自分ごととして学習内容を活用できるように工夫されている。 <p>＜健康・安全についての理解を深めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身近な課題を考える資料「さらに広げよう 深めよう」、児童の理解を助ける「科学のとびら」や「この人に聞く」のコーナーがあり、理解を深めるための工夫がされている。 ○各章末の「学習のまとめ」や学習をいかし、これからの自分の生活を考える「学んだことを生かそう」のコーナーがあり、実践的に理解を深めるための工夫がされている。 <p>＜生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭でトップアスリート等の言葉を掲載したり、運動についての資料やコラムを掲載したりすることにより、運動と健康について考えられるように工夫されている。 ○「はってん」では、中学校の学習内容を資料等で示すことで、小中学校の学習内容を系統的に指導できる工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入に、児童が学習内容を身近に感じられるようなストーリー形式のイラストと会話が掲載され、児童の学習意欲を喚起させるように工夫されている。 ○グラフや写真、イラスト、学習の思考を助けるキャラクター等の資料により、児童が理解を深めることができるように工夫されている。 ○思考・判断したことを表現する記入欄や、話し合いの記入欄、学んだことの記入欄、「学習のまとめ」の自己評価欄等、評価を行う手掛かりとなる場面が設定されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入ではストーリー形式でまとめられた「とびらのページ」が掲載され、1単位の学習内容が見開き2ページにまとめられている。 ○ユニバーサルデザインの視点から、読みやすさに優れたユニバーサルデザインフォントを使用したり、カラーユニバーサルデザインを踏まえた配色にしたりしている。 ○現代的な諸課題への対応の視点から、学習内容と関係するSDGsの目標を記載したり、思春期にあらわれる変化について配慮した表現をしたりしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的、対話的な学びを通して、基礎的・基本的な学習内容を理解できるような紙面の構成が工夫されている。 ○学んだことを書いたり、他人に伝えたりする活動によって、思考力・判断力・表現力等が育成できるように工夫されている。 ○ストーリー形式のイラスト、動画やウェブサイト等、学びを広げ、深めるための資料によって、児童が興味を持って学びに向かえるように工夫されている。 ○アスリートやクリエイターの言葉や、運動についての資料、中学校に接続することを示した学習資料を掲載することにより、児童が生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成できるように工夫されている。 	

書名 項目	新・みんなの保健	224 学研
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イラストを多く活用し、その事象についての説明が簡潔に書かれていることや、重要単語は黒の太字で書かれているため、知識及び技能が習得されるように工夫されている。 ○各項目の内容が主体的・対話的で深い学びになるように、「課題をつかむ」「自ら取り組む活動」「対話的な活動」「活用」が見開きで構成されており、知識及び技能が習得されるように工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「自分で考える」「友達やみんなと考える」「活かす」の構成によって自分の考えを形成したり、深められたりできるように工夫されている。 ○イラスト・写真・データをもとに、考えや気づいたこと、自分だったらどのように行動するかを記述していく解答欄が多くあるので、思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫がされている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入に、具体的な例を挙げて考えさせるような活動が組み込まれているので、子どもたちが見通しをもって学習に取り組むことができ、主体的に取り組むことができるように工夫されている。 ○分かりやすく工夫されている資料が多くあるので、子どもたちが興味・関心を高めることができる。と考える。 <p>＜健康・安全についての理解を深めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康に害する事項を、イラストを用いて説明されているため、子どもたちが視覚的に理解することができるように工夫されている。 ○「ほけんのはこ」で健康・安全に関する内容がプラス α で掲載されているため、子どもたちが理論的に内容を理解することができるように工夫されている。 <p>＜生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各病気の内容や原因となる事項が細かく掲載されているため、子どもたちが病気にならないようにしようという考えを促すように工夫されている。 ○生活習慣病や各病気にかからないようにするための方策を記述する欄があるため、子どもたちが自分ごととして捉えることができるように工夫されている。 	
資料	<ul style="list-style-type: none"> ○イラストや写真を使った資料が数多く掲載されているため、子どもたちが視覚的に理解することができるように工夫されている。 ○「かがくの目」の掲載によって健康に関する事象を科学的に知ることができ、子どもたちの理解が深まるように工夫されている。 ○思考・判断したことを記入する欄、QRコードを読み取って振り返りを記入する欄、単元末に学習の振り返りを記入する欄等、評価を行う手掛かりとなるような場面が設定されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○各項では、学習の進め方を示した3つのピースが示され、1単位時間の学習内容が見開き2つ（4ページ）にまとめられている。 ○重要語句は黒の太字で書かれているので、大切だという意識付けができる。 ○「つなぐ」で学習した学年と教科が書かれているので、教科横断的な学習をすることができる。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の初めに自らの生活を振り返り、自分の考えをもって学習活動を進めることで、基礎的・基本的な学習内容を理解できるように紙面の構成が工夫されている。 ○自分の考えや気づいたことを記入していく欄が多くあるため、子どもたちは自分の考えを自由に表現することが多くあるため、思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫がされている。 ○保健の学習の進め方が明記され、見通しをもち、主体的に学習に向かうことができるように工夫されている。 ○学習内容と現代的な健康問題を関連付ける等、健康・安全についての理解を深める工夫がされている。 	

<p>書名 項目</p>	<p>NEW HORIZON Elementary English Course</p>	<p>2 東書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元末にアルファベットの音と文字に慣れ親しむ時間「Sounds and Letters」が設けられており無理なく文字の名前を定着させたり、文字の音に慣れ親しませたりすることができる。また、視覚や音声から基礎知識を習得できるように工夫されている。 ○「Let's Try」で慣れ親しんだ表現を活用して、友達とやり取りを行い、「Small Talk」には参考となるトピックが掲載され、さらに「Enjoy Communication」で学習内容を振り返りながらコミュニケーションを図る工夫がされている。 ○書く活動を重視しており豊富な書き込みスペースがある。 <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○導入「Starting Out」では、単元の学習内容に慣れ親しみ、展開「Your Turn」では、学習した語彙や表現を使ったペアやグループでのやり取りを通し、学習内容の定着が図られるように工夫されている。まとめ「Enjoy Communication」では、単元で学習した表現力を確認し、それらをもとに会話の内容を広げる。また年間3回、思考ツールを使って、内容を整理し発表する「Check Your Steps」がある。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「Enjoy Communication」では、単元の目標となる活動を行う「Your Goal」を視野に入れ、学習した内容を使って自分の考えや思いをペアで伝え合いながら、話題を広げられるような工夫がされている。また、各単元の最後には、世界の文化を知ることによって児童の視野を世界に広げて、英語を学ぶ意欲が高まるようなパートが用意されている。 <聞くこと、読むこと、話すこと【やりとり】、話すこと【発表】、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○各単元の目標達成に向けて、スパイラルに活動が配置され、5領域がスモールステップでバランスよく扱われている。各単元の主な表現は「Let's Chant」や「Small Talk」等で繰り返し扱われ、文構造等の気付きにつながるよう工夫されている。 ○英語を使用する日常の場面が設定されており、日本や世界・SDGsなど、段階的に児童の視野を広げ、児童が主体的に取り組むことができる目的・場面・状況を伴った言語活動が工夫されている。</p>	
<p>デジタル教科書</p>	<p>○書き込み機能が充実しており、拡大して書き込むことができる。また2画面表示機能を使って、本体と「My Picture Dictionary」を同時に表示することができる。 ○教科書の登場人物と模擬会話ができたり、動画字幕のON/OFF・音声の再生速度変更機能を活用できたりするなど、児童が自分のペースで学習を進められる工夫がある。 ○調べ学習に最適な Digital Map があり、児童に合った学びが選択できる。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には5年生「日本でつながるわたしたち」、6年生「世界とつながるわたしたち」がある。各学年にアルファベットと6年生には名前や単語、文の書き方の記載がある。「コンピューターを学習にいかそう!」では QR コードからのコンテンツ利用が紹介されている。 ○巻末には「Try it」や絵・コミュニケーションカード、6年生に「Going to Junior High School」がある。別冊「My Picture Dictionary」に「Can Doの樹」、ローマ字表がある。「My Picture Dictionary」には、空欄のカード欄がある。記入することで、自分だけのオリジナル絵辞書を作ることができる。 ○デジタルコンテンツでは、ストーリー、チャンツ・歌、モデル映像、デジタルワークシート、資料映像などが掲載され、QRコードから見られるように工夫されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○英語はオリジナル書体、日本語にはユニバーサルデザイン書体が使われている。 ○英語表記の第2線と第3線の間がやや広くなっており、第3線は青色で区別されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各単元が4段階で構成されており、単元ごとに Our Goal が設定されている。各単元末の「Sounds and Letters」ではアルファベットの名前、音、文について段階的に学ぶ工夫がされている。年3回の「Check Your Steps」では、学期ごとに学んだことについて振り返る工夫がされており、定着を図ることができる。 ○紙面に書く活動が多く盛り込まれており、思考の言語化がしやすくなっている。また、単元を通じ、コミュニケーション活動も多く、内容も豊富で、英語の見方考え方を働かせるための工夫が多く設定されている。</p>	

書名 項目	Junior Sunshine	9 開隆堂
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各 Lesson 8 時間の配当時数で統一されており、見通しをもって学習に取り組めるようになっている。また Lesson 毎に習得したい力やゴールの言語活動が明確に示されており、第 1 時からスモールステップで資質能力を育てられるよう工夫されている。 ○Lesson の初めに「Let's Watch and Think」があり、各単元で学習する語句や表現との出会いをとおして「推測して意味を捉える力」を身に付けられる工夫がされている。また、児童が語句や表現に慣れ親しめるよう、様々な活動が用意されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Activity では、既習事項を使うことを通して英語を習得できるよう、児童にとって身近な相手や場面が意図的に設定され、自分の考えや思いに置き換えやすい工夫がされている。 ○子どもたちの興味・関心に応じて指導の効果を高められるよう、単元の学習内容と教育課題との関連が示されている。 ○自分の考えや思いを相手に伝えるために必要な語句を別冊「Word Book」ですぐに調べられるよう、関連性の高い語句が掲載されているページが記載されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末にある「CAN-DO チェック」では、児童自身が「何ができるようになったか」を確かめ、自らの成長や課題に気づき、学習を調整する力や学習に見通しをもって取り組む態度を育てる工夫がある。 ○「Our World」では、単元のまとまりの中で扱っている表現を中心に、世界各国の言語、生活習慣や伝統文化を紹介することで、多くの異文化に触れられるよう工夫されている。 <p>＜聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各 Lesson において多くの言語活動や歌、チャンツなど多彩なコンテンツで英語を聞き、英語を発話したあと、音声で慣れ親しんだ英語を文字と結び付け、手本や例文を見ながら書くという一連の流れが紙面上で順序立っている。 ○「Sound and Letters」では、小学校での習得が求められているアルファベットの学習を帯活動で取り組み、スモールステップで習得できるようになっている。 ○4 技能 5 領域の力をバランスよく育成するため、既習事項を用いた短い読み物が掲載され、音声から文字へ「読むこと」の学習が各単元の最後に設定されている。 	
デジタル教科書	<ul style="list-style-type: none"> ○QR コードで多様な歌とチャンツ、日常生活を題材とした英語のアニメーションなど、児童が自由に見たり聞いたりすることができるため、個々のペースで英語の音声とリズムに繰り返し触れることができる。 ○タイマーやデジタル教科書の URL コピー、その他のリンクを貼り付けられる機能があり、学習用端末を活用した学びに取り組みやすい工夫がある。 ○Word Book では、スペルを見ながら何度も発音を確認できるようになっている。また、音声聞き取りやすいように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には、児童が学習を見通せるよう 8 時間の学習の流れや目的を掲載している。 ○巻末には、アルファベット表（大文字、小文字）と大文字と小文字のアルファベットカード（4 線あり）へボン式ローマ字表が付属している。 ○付属のワークシートは、紙ベース、データベースのどちらも活用することができる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○4 線の縦幅は、文字が書きやすく、中学校への移行もスムーズな第 2 線と第 3 線の間が広いものを使用している。線は全て実線だが、第 3 線のみ青くなっている。 ○学習者支援機能として紙面読み上げ音声機能がついている。画面の文字の大きさや色、行間の調節も行うことができる。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各 Lesson 見通しがもちやすいよう 8 時間構成になっており、単元のゴールと見開きごとのめあてが掲載されており、指導者も児童も単元の流れが分かりやすい。 ○児童にとって身近なストーリーで展開され、「十分に聞いて触れる」「自分の言葉で使う」「見ながら書く」という一連の流れが、順序良く掲載されている。 ○家庭でも児童が個に応じて学習できるよう、動画や歌、チャンツ、動画、音声デジタルコンテンツに収録されており、どこでも何度でも学べるようになっている。 	

書名 項目	CROWN Jr.	15 三省堂
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各 Lesson のチャンツや Small Talk、ABC Fun Box、Story Time などの活動により、インプットの内容が充実している。Story Time では、読み聞かせるだけでなく簡単な内容理解の確認問題が設置されているので、内容を推測しながら聞く力を育む工夫がされている。 ○各 Lesson は Let's Watch/Listen/Speak と目で見、聞いて、発するといったインプットからアウトプットの流れで構成されており、児童の言語習得への工夫がされている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元は HOP、STEP、JUMP で構成されている。HOP では Unit 全体の流れとゴールを確認して学習の見通しをもち、自ら目標を立てる。STEP では語句や表現をスモールステップで段階を踏んで学習する。JUMP ではそれまでに学習したことを、目的や場面、状況に応じて表現する言語活動が設定されている。思考力・判断力を働かせながら表現し、学習内容の定着が図られるように工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が自ら立てた目標に向かって、ペアやグループワークを通して対話的・協働的に学び合える構成になっている。また、Story Time では、児童に馴染みのある童話等が英語の音声聞けるようになっている。イラストごとに音声を聞くことができるので、繰り返し聞いてみたり、聞こえた音声を皆で確認したりすることによって児童の学習に対する意欲を高める工夫がされている。 <p>＜聞くこと、読むこと、話すこと〔やりとり〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2年間使う別冊絵辞典 My Dictionary を関連づけながら学習を進める構成になっており、児童の学習のスタートを揃える工夫がなされている。 ○2学年で6つの言語活動の目標が設定されており、それらに向けて学びを深めるために6つの Unit が配置されている。6つの Unit は外国語（英語）以外の教科の既習内容を踏まえて学習することができるように工夫されている。 	
デジタル教科書	<ul style="list-style-type: none"> ○字幕を選ぶことができ、動画を観ながら設問に回答することができるよう工夫されている。 ○アルファベットの筆順がアニメーションで確認できるよう工夫されている。 ○パノラマや My dictionary などの単語の音声を聞いたり、ゲーム感覚で学べる単語学習ができたりする。既習の表現や語句で構成されている物語「Story time」の音声は速度をかえて何度も聞くことができる。 ○Let's play には「活動のしかた」が PDF で確認できるようになっており、指導者が活動の説明をしやすくなるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○Story Time が5年生では5つ、6年生では6つ設定されている。イラスト付きで児童が内容を類推しやすく工夫されている。 ○5年生の教科書ではローマ字のヘボン式と訓令式の違いが説明されている。また、ヘボン式と訓令式のローマ字一覧表が5年・6年の教科書巻末に紹介されている。 ○My dictionary は罫線付きで英単語がカテゴリー別に載っている。イラスト等を見て類推する力を高めるための工夫がされている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインに配慮したフォントが使用されている。 ○Lesson の活動が定位置に配置されており、配慮を必要とする児童を含む全ての児童が学習しやすい構成になっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○3つの大きな Unit からなり、各単元は「HOP」「STEP」「JUMP」で構成されており、順を追って学習内容が身につくように設定されている。 ○Small Talk や Story Time などのインプット活動が豊富である。 ○Unit では、教科横断的な要素が組み込まれている。また、他教科における既習の内容を通して外国語（英語）の学習内容の理解が容易になるような工夫がされている。 	

書名 項目	ONE WORLD Smiles	17 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Let' s Watch/Let' s Say It Together/ Let' s Listen/Activityといった、視覚的・聴覚的なインプットを意識した学習の流れとなっている。児童がスムーズに学習に入っていける工夫がされている。 ○各 Lesson の最後には Final Activity が設定されており、個に応じた、各児童の能力にあったアウトプットの機会が設けられており、Lesson で学習したことが内容が習得できたか確認できる工夫がなされている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観る/口慣らし/聞く/やり取りの活動をする流れとなっており、インプットからアウトプットへと段階的な学習が進められる工夫がされている。また、Lesson 最後に設定してある Final Activity では、これまでに学習した語句や表現を用いて、自分のことについて表現する活動が設定されており、学習を自分ごととして捉えて進めていくことができるように工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Activity や Final Activity ではペアワークやグループワークを通してコミュニケーション能力を育成する工夫がなされている。 ○各 Lesson 終了時には「Lesson をふりかえろう」の項目があり、自分の進捗度やできるようになったことを意識させ、自ら学習に向かう態度の育成を図る工夫がされている。 <p>＜聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○使われている表現が海外の友達と会話をする上でよく使用する内容となっており、インプットからアウトプットへと段階を踏んで習得することができるように工夫されている。 ○言語活動では、目的、場面、状況が設定されており、言語の意味や使用する場面を理解できるような工夫がされている。 	
デジタル教科書	<ul style="list-style-type: none"> ○まなびリンクでは、実際の子供が出てきてアクティビティに取り組んでいる様子が観られるので、場面や状況に応じて使用する言語表現がイメージしやすくなるよう工夫されている。 ○デジタル教科書内にポインターや書きこみができるようになっており、デジタル教科書を大型提示装置で投影したらすぐに授業ができるプラットフォームが使用されている。 ○アクティビティ毎に QR コードが設定されているので、すぐにデジタル教科書の音声や映像にアクセスできる工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末には、ローマ字表（罫線有、日本語表記有）がついている。ヘボン式ローマ字表となっているが、括弧書きで訓令式のローマ字の表記もされている。 ○巻末には単語表（罫線無）がついており、語彙を増やすことができる工夫がされている。また、ワークシートも巻末に付録して切り離せるようになっているので、授業準備が容易になるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○英語・日本語共にユニバーサルデザインを意識したフォントが採用されていて、見やすくなっている。 ○Dream World Tour といった世界の国々や名所・名物などが写真やイラストで表現されており、それぞれの国に対する愛着が生まれるように設定されている。また、地図上に表記されているため、どこに国があるか一目で分かるようになっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元が観る（見る）/聞く/発する [やり取り] といった、インプットからアウトプットへの流れで学習しやすいように構成されている。 ○3・4年生の外国語活動の構成を意識し、5・6年生の外国語の授業がスムーズに行えるつくりとなっている。 ○英単語イラスト辞書 (Picture Dictionary) 等があり、より単語の確認がしやすく、インプットの強化が図られるような工夫がされている。 	

書名 項目	Here We Go!	38 光村
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「Can-Do」リストとその単元で重点的に学ぶ観点提示されており、学習の目標が視覚的に分かりやすく示されている。「Let's listen and point」の活動で単元に関連する単語と意味の確認をすることができるよう工夫がされている。 ○Unitごとにsmall talkや歌、チャンツなどが準備されており、既習事項を振り返りながらその単元の言語活動に取り組むことができるように工夫がされている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○UnitごとにHop!, Step 1・2, Jumpの4段階の設定がある。「Hop!」で単元のゴールを示し、「Step 1・2」で1つ1つの表現を見る、聞く、話すの一連の流れで定着を図る工夫がされている。そのため聞く活動から話す活動へ、スムーズに移行できるようになっている。 ○読む、書くについてスモールステップで学習を進められ、最後の「Jump!」では単元で慣れ親しんだ表現を活用し、自分の言いたいことが表現できるようになっている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どの単元にも児童が興味を持ち、主体的に取り組める活動が設定されており、目的意識、相手意識が持てるよう工夫がされている。友達とのコミュニケーションが円滑になるように、やり取りの際に活用できる表現を「Plus One」にて扱えるように設定されている。 ○学期末に設定されている「世界の友達」では、世界の12カ国の実際の小学生の話を各々の国の発音で聞くことができ、多様性に気づき、様々なものの見方ができるよう工夫がされている。また、文化の違いや共通点を見出すことができるような工夫がされている。 <p>＜聞くこと、読むこと、話すこと〔やりとり〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他教科やSDGsとの関連項目、キャリア教育や防災領域の視点についても掲載され、教科横断的な学習ができる。 ○語彙の選定も尽くされており、児童に人気のある職業や児童が興味を引きそうな内容も扱っている。児童の実態に合わせた工夫がされ、活動しやすくなっている。 ○1つの単元で何度も既習表現に触れることで、様々な表現に慣れ親しみ、習得につながり、活用できるような工夫がされている。また、既習内容に何度も触れるため、児童が自分の思いを伝える際に、既習事項が活用しやすく工夫がされている。 ○各学年の最後にプロフィールシートがあり、年間を通じて書き込むことで、自分のことについて英語で紹介できるようにしている。 	
デジタル教科書	<ul style="list-style-type: none"> ○英語のスピードを5～9段階から選ぶことができ、個別に聞き直したり、繰り返したりする学習に対応できる工夫がされている。 ○アニメーションがあり、推測しながら聞きことができる工夫がされている。 ○漢字のルビふり、日本語の読み上げ、色の反転等が設定されており、多様な学び方ができるように工夫がされている。 ○スクロール機能を活用し、3ページ分を同時に確認することができる。 ○自己評価を書き込んで送ることができるように工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○学年ごとにpicture dictionaryがあり、絵や写真での意味を示している。2年間を通じて多くの単語にふれることができる。一部には日本語訳もついている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○英語はオリジナル書体、日本語にはユニバーサルデザイン書体が使われている。 ○英語表記の第2線と第3線の間がやや広くなっており、第3線は青色で区別されている。それ以外は薄い灰色で示されている。 ○日本語と英語の大きさに差はないが、用途に応じて文字の大きさが使い分けられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○単元は「Hop!」「Step 1・2」「Jump!」の3部構成である。各単元の終わりには書く活動が組み込まれている。 ○聞く・読む活動をメインとする「世界の友達」や話す・書く活動がメインの「You can do it!」が設定されており、5領域においての到達度を確認することができるように工夫がされている。 ○学習者用デジタル教科書では、個別最適な学びができるような機能が様々搭載されており、児童のニーズに応じた学びができるようになっている。 	

書名 項目	Blue Sky elementary	61 啓林館
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入では、イラストを見て場面や言葉の意味を推測させる工夫がある。またUnitのゴールと各stepのめあてを掲示し、学びの見通しがもてるようになっている。 ○「Activity」では、学んだ基本的な表現を使ってやり取りをしたり、単元の最後に自分の思いを発表したりする活動が設定されている。またそれぞれに「Tips」があり、コミュニケーションを円滑に進めるためのヒントが示されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「とびら」では、学びの見通しをもたせる。「Step1・2」では、新しい語彙や表現に慣れ親しみ、簡単なやり取りや発表の活動をする。「Step3」では、「聞く」「話す」活動を通し、慣れ親しんだ語句や表現を用いて、コミュニケーションを楽しむ活動となっている。また、年3回の「REVIEW」では、提示された場面においてどのような英語で伝えればよいのか考え、表現する活動設定されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末についている「会話を楽しむフレーズ集」には、会話の中で使える様々な相づちや質問の表現が示されており、相手意識をもったコミュニケーションが身につく工夫がされている。「Did you know?」では、異文化や日本とのつながりなど、単元に関連するトリビア的知識を紹介し、児童の興味関心を引き出す工夫がされている。 <p>＜聞くこと、読むこと、話すこと〔やりとり〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5つの領域別の目標と指導の関係が明確になるように、各活動にマークで示されている。巻末のCan-Do Listで、各領域別の振り返りができるようになっている。 ○インプット→ミニアウトプットを繰り返し、表現に慣れ親しむことができるように配慮されている。チャンツは、分かりやすく英文が表示されたり、強く読む箇所にアクセントマークが記載されたりするなどの工夫がある。 ○言語材料の使用場面や、児童が目指すゴールのイメージをアニメーションで提示されており、どんなことを話しているのか、児童が想像しながら場面や言語材料に触れることができるようになっている。 	
デジタル教科書	<ul style="list-style-type: none"> ○単元のゴールの姿や、発表のよりよい例を動画で視聴できるので、児童に見通しをもたせながら進めることができる。 ○英語を選択して文を作る「英文 Maker」があり、その音声を聞くことができる。また3択「単語クイズ」があり、単語の定着を図ることができる。再生速度は6段階あり、視聴できるコンテンツも充実している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に「コミュニケーションに大切なこと」巻末には「会話を楽しむフレーズ集」がある。切り離して使用できるので、発表ややり取りをする時に確認したり、参考にしたりすることができる。 ○世界のSDGsに関する取り組みがクイズ形式になっていたりするなど、児童の関心を高められるよう工夫されている。 ○辞書は別冊ではなく、教科書巻末にWord Listと切り取り式絵カードが記載されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○5年教科書の最初にヘボン式ローマ字表が記載されており、国語で学習した訓令式からスムーズに移行できるよう配慮してある。 ○QRコードがそれぞれのコンテンツごとについており、全てのリスニング問題の音声を聞くことができる。 ○横に広く見渡せるようになっている世界・日本地図があり、5・6年どちらにも掲載されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元のめあてや、言語の使用場面のアニメーションが提示され、学びの見通しをもって学習できるような工夫がある。 ○単語・アルファベット3択クイズや「英文 Maker」等の興味・関心を引き出すコンテンツが豊富である。 ○紙面には動画ごとのQRコードがある。また全てのリスニング問題の音声を聞くことができたり、チャンツを言う際の英文やアクセントマークが記載されていたりするなど、児童が自分で学習を進めることができる工夫がされている。 	

書名 項目	新編 新しい道徳	2 東書
内 容	<p><現代的な課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○SDGs を自分のこととして捉え、自分の生活と重ね合わせながら考えられるようにしている。 ○いじめ、コロナ禍での差別や生活についての情報モラルなどを取り扱う教材があり、時代を反映している。 ○いじめの問題は繰り返し考えられ、法律から考え、視点を広げられるようになっている。 ○取り上げられている偉人が今の時代にあっている。 ○情報モラルが取り上げられていて、著作権の○×クイズや情報発信する際のことなど、児童の興味関心に合う形で取り上げられている。 <p><ねらいを達成するための効果的な工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに発問が2つずつあり、児童自ら考えられるようになっている。 ○書き込めるワークシートのページがあり、児童自ら学べるようになっている。 ○教材に入る前に、学習のしかたや教材一覧があり、学び方が分かる。 ○教材の後の「つながる広がる」が充実。自分事として捉えたり、見方を広げたりできる活動もある。 ○いじめ・命・自分についてを全学年同時期に配当し、生命の尊さや自分のよさ、可能性について見つめられるよう工夫されている。 ○本や絵本の紹介があり、道徳の時間はもちろん他の時間にも学びを深めることができる。 <p><「考え、議論する道徳」></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材名のとなりに副題のようなものがついていて教材の内容がわかりやすい。 ○教材によっては、教材名でどのようなことを話し合うのかわかりやすい。 ○考えるためのツールのページがある。 ○巻末に、心情円を作成できるページがある。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○挿絵が現代的。表情が絶妙で、考えさせられるものとなっている。 ○写真が効果的で整理整頓・自然・地域のことなど、写真の方が伝わりやすいものもある。 ○表紙の絵、挿絵の色が濃く、人気のアニメ番組のような色使いである。 ○QR コードが充実しており、朗読音声流れるスライドショーなどが用意されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○内容項目を整理した4つの視点が色別に表示され簡潔でわかりやすい。 ○1、2年生は分かち書きで、文節改行されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○詩や大きい挿絵、見開きの写真、漫画の教材、スポーツ選手、先人の伝記を題材にした教材がある。 	

書名 項目	小学道徳 はばたこう明日へ	17 教出
内 容	<p><現代的な課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○SNS いじめやネット上の友達についてなどが取り上げられていて、現代の児童の実態に合っている。 ○いじめ、新型コロナウイルスからの差別、情報モラルについて全学年で重点テーマとし、児童の発達段階や生活環境に即して様々な視点で問題に対して考えられるように工夫されている。 ○SDGs 等に関連する教材や資料を組み合わせ、学びを広げ一人一人が課題を発見し、考えを深められるように工夫されている。 ○低学年に不審者対応についての教材があり、自分の身を守る意識を高めることができるよう工夫されている。 ○とり上げられている偉人が今の時代に合っている。 <p><ねらいを達成するための効果的な工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○せりふや気持ちを考えさせる吹き出しなどがあり、ねらいにせまりやすい。 ○巻末資料に、SDGs や世界人権宣言の説明がのっている。 ○教材ごとに（発問）（考えよう・深めよう）があり、児童自ら考えられるようになっている。 ○高学年の教材ではアサーショントレーニングを取り入れている。 ○教材の終わりに「考えよう」「まとめよう」「つなげよう」があり、学習の流れに沿って考える手立てとなっている。 ○各学年で重点テーマを設定し、同じ内容項目の教材を、時期をかえて複数回学習できるようになっている。 <p><「考え、議論する道徳」></p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳の時間の学び方や広げ方が、わかりやすくまとめられている。 ○教材ごとに題名の下に「マナビィ」がいて、話し合いたいこと、考えたいことが分かるようになっている。 ○教材ごとの最後のページに「しっかり考えられた。」「新しく気付いたこと・したいことがあった。」「大切にしたいことが分かった。」と振り返るページがある。 ○教材名とねらいを関連付けられた教材があり、どのようなことを話し合うのかがわかりやすい。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットの活用方法例が多く紹介されている。 ○絵本が教材となっていて、児童にとって親しみやすい。 ○巻末に、「マナー」「いらいら対策」などがのっていて、実生活と結び付けることができる。 ○学びの記録のシールがあり、児童の達成感が分かる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の中に出てくる言葉でわからないものは脚注があり、児童だけで読んでもわかるようになっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○絵本や詩、一枚絵から考える教材、漫画教材、スポーツ選手、先人の伝記を題材にした教材がある。 	

書名 項目	道徳 きみが いちばん ひかるとき	38 光村
内 容	<p>＜現代的な課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ヘルプカードや環境問題など、現代的な問題を扱っている。 ○いじめ、コロナ禍での差別や生活についての教材があり、現代的な課題を自分のこととしてとらえられる工夫がされている。 ○取り上げられている偉人が、児童にとって身近に学習を進められる手立てとなっている。 ○付録が各学年にあっており、発達段階に応じた学びにつながっている。 ○SDGsのことを自分のこととして捉えられるよう、発達段階に即した話題を教材として取り上げ、自分の生き方と関わらせながら考えを深めていけるように工夫されている。 <p>＜ねらいを達成するための効果的な工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には何を学ぶ教科なのか、また、一年間の学びの流れなどが掲載され、児童が自分とのかかわりで主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ○道徳はどのような時間なのかが低学年にもわかりやすく簡潔にまとまっている。 ○話し合うこつもわかりやすくまとめられている。 ○本やウェブサイトが紹介されているページがあり、学びを深める手立てとして参考になっている。 ○思考ツールが取り上げられていて、考えを広げられるようになっている。 ○教材ごとに「考えよう・話し合おう」「つなげよう」があり、どんなことを考えていけばいいのかがわかる。 ○全学年で生命尊重に重点をおき、詩や日常生活の中から、児童が生命の尊さを実感できるよう工夫されている。 <p>＜「考え、議論する道徳」＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「こころをかよわそう」「道徳で使う言葉」など、話し合い方も学ぶことができるページがある。 ○どの学年も1番目の教材は、道徳の授業のオリエンテーション的な役割をしている。 ○教材名のとなりに副題のようなものがついていて教材の内容が分かりやすい。 ○教材によっては、教材名でどのようなことを話し合うのかわかりやすい。 ○学びの記録があり、児童の達成感が分かる。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○動画や音声朗読などがQRコードコンテンツとして用意されている。 ○タイトル「きみがいちばんひかるとき」から、一人一人を大切に教科書を作成した意図が伝わってくる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1、2年生は分かち書きされている。難しい語句は脚注で解説されている。 ○教材ごとに4つの視点がマークで示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○絵本や詩、一枚絵から考える教材や漫画教材、スポーツ選手、伝記を題材にした教材がある。 ○挿し絵や表紙の色など、色が濃くなくさわやかで見やすい教材が多い。 	

書名 項目	小学道徳 生きる力 小学道徳 生きる力 道徳ノート	116 日文
内 容	<p> <現代的な課題> ○低学年には、身近な物から道徳心を発見する「ここにも道徳」のコーナーがある。 ○SDGs と繋がりを持たせた内容があり、巻末に示された SDGs の目標とかかわらせて考え方を広げられるよう工夫されている。 ○年間3回のいじめ防止ユニットが設定されており、いじめを「間接的に扱った教材」と「直接的に扱った教材」がある。 ○キャリア教育や防災教育、平和・人権教育、情報モラルについてなどの現代的教育にも対応している。 ○伝統文化や国際理解などの教材がバランスよく配置されている。 </p> <p> <ねらいを達成するための効果的な工夫> ○低学年の教材では、2つの行動が比べやすくなるような資料提示がされている。 ○本時の道徳的価値がわかりやすく書かれている教材がある。 ○資料をじっくりと味わい、自分自身を振り返りながら考えを深める工夫がされた教材がある。 ○内容項目が児童向けのわかりやすい言葉で書かれているため、児童がねらいを達成するための学習の手がかりとなる。 ○リード文と主な登場人物について書かれているため、児童が考えたり話し合ったりする時間を確保できる。 ○コラム「心のベンチ」を設け、今の自分を見つめ、これからにつなげられるよう工夫されている。 </p> <p> <「考え、議論する道徳」> ○道徳ノートがついているため、考えたことが記録できる。 ○「ぐっと深める」のページに深い学びを実現するための参考例が各学年5教材に設定されている。 ○葛藤場面がわかりやすい資料が多い。 ○役割演技や心メーターなどが活用できそうな資料も多い。 </p>	
資 料	<p> ○QRコードで読み取りができ、資料やワークシートの活用ができる。 ○表記が統一されているので、わかりやすい。 ○資料の初めに、登場人物や内容のあらすじが書かれているため本文の内容理解がしやすい。 ○脚注が書かれているものもあり、わからない言葉があっても脚注を頼りに内容の理解ができる。 </p>	
表記・表現	<p> ○表記は明確で、わかりやすい。 ○1・2年生は分かち書き、文節の改行がされている。 ○学習指導要領の4つの視点がマークで表され、目次や索引は4つの視点を色分けして示されている。 </p>	
総 括	<p> ○別冊の「道徳ノート」は紙とデジタルの使い分けができ、実態に応じた授業展開で活用することができるように工夫されている。 ○詩や漫画教材、スポーツ選手、伝記を題材にした教材がある。 </p>	

書名 項目	小学道徳 ゆたかな心	208 光文
内 容	<p>＜現代的な課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生命の尊厳・自然、人との共生（ジェンダー・人権）等が低学年の教材から入っており、発達段階に応じて考えを深める工夫がされている。 ○情報モラルや SDGs についてのコラムがあり、児童にわかりやすい言葉で書かれている。 ○いじめや命についての資料が、学年ごとに独自主題となって提示されている。 ○重点的に考えさせたい内容について、教材配列を連続させ、児童が課題について様々な視点から考えられるよう工夫されている。 <p>＜ねらいを達成するための効果的な工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に「問いを見つけ、考え、まとめ・ふりかえり、ひろげ・つなげる」という学習の流れが紹介されており、主体的に考えられるように工夫されている。 ○学びの足あとが教科書の最後についており、授業の記録ができるようになっている。 ○学びの足あとは学年ごとに記述の仕方が異なっていて、発達段階に応じた書き方ができるようになっている。児童にとっても、自己の成長や考えの変化などが分かりやすく見取れるようになっている。 ○重点主題は複数時間で構成されており、心の成長が実感できるように工夫されている。 ○教材のはじめに、本時で考えることについてわかりやすい表現で書かれており、見通しをもった学びができるよう工夫されている。 <p>＜「考え、議論する道徳」＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○絵や図を使って考えることができるように、学年に応じた思考ツールについても教科書に書かれている。 ○クラスや学校生活などを舞台にした、自分ごととして考えやすい教材や長く読まれてきた定番教材、人物の苦悩や努力などの生き方から考える教材など、人間としての生き方に迫る教材が多い。 ○コラムは体験的な活動をとおして、よりよい人間関係が築けるような工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QR コードで読み取りができ、資料やワークシートを見ることができる。 ○登場人物の紹介や場面の状況などがページの最初に書かれ、児童が教材を理解しやすいように工夫されている。 ○目次ページでアイコンの説明があったり、オリエンテーションのページで学習の流れがイラストでわかりやすく示されていたりする。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを使用している。読みとり間違いがないように1～3年生はすべてルビが振られ、4年生からは当該学年以上の漢字にルビが振ってある。 ○学習指導要領の4つの視点がマークで表され、索引は4つの視点を色分けして示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年にレジリエンスコラムを設け、困難を乗り越える「心の力」を理解し、自分らしくたくましく生きるための力を育てるように工夫されている。 ○絵本、見開きの絵や写真、アニメや漫画教材、スポーツ選手、伝記を題材にしている。 	

書名 項目	新版 みんなの道徳	224 学研
内 容	<p>＜現代的な課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「現代的な課題」が分かるようにマークで示されている。 ○情報モラル・SNS いじめ防止・安全・食育・命・共生・キャリア・健康・世界について等を扱った教材が充実している。 ○それぞれの課題についてアイコンが設定され、どの資料にどんな課題が入っているのかが、児童の視点からも分かるようになってきている。 ○命、多様性、キャリアのテーマを全学年で連続して学べるよう配置し、児童がよりよく生きることについて考えられるように工夫されている。 <p>＜ねらいを達成するための効果的な工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに「考えよう」に考える視点が書かれている。 ○教科書の巻末には「つなげよう 広げよう」のページが各学年に示されていて、自分を見つめ返し、次年度へつなげる工夫がされている。 ○ユニット学習ができる設定になっている資料もあり、多面的多角的に考えられるようになってきている。 ○教材冒頭では主題名ではなくキーフレーズが掲載されており、児童が自分とのかかわりについて主体的に考えられるよう工夫されている。 ○いのちを重点テーマとして内容項目が異なる複数の教材を組み合わせ、様々な視点から考えを深められるよう工夫されている。 <p>＜「考え、議論する道徳」＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に1年間の学びの全体像や自分の考えを深めるポイントを掲載しており、自分ごととしてとらえられるよう工夫されている。 ○「深めよう」のページでは、授業の流れが示されていて、児童が記述して考えを深めていけるよう工夫されている。 ○「心のパスポート」のページでは、学習をとおして考えたことや自分の気持ちの変化などを記述するようになっており、今までの学習を振り返ったり、自分の成長を見取ったりする工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコードで読み取りができ、資料やワークシートの活用ができる。 ○学年に合わせた挿絵が使われ、資料をよりわかりやすくしている。 ○明るく、柔らかな印象のイラストが多い。 ○現在活躍している人物や先人の生き方、児童の生活にかかわることなど幅広いテーマが教材に取り上げられており、学習意欲を喚起できるよう工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1、2年は分かち書き、文節改行されている。 ○イラストと文のバランスが取れている。 ○学習指導要領の4つの視点がマークで表され、目次や索引は4つの視点を色分けして示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「深めよう」「心のパスポート」を設け、多様な視点から身近な話題について考え、「考え、議論する道徳」を実現できるよう工夫されている。 ○詩や漫画教材、スポーツ選手、伝記を題材にした教材がある。 	

<p>書名 項目</p>	<p>こくご☆・こくご☆☆・こくご☆☆☆ 国語☆☆☆☆・国語☆☆☆☆</p>	<p>2 東書</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「書くことにおいては、チョークやクレヨン等のいろいろな道具を使って書くこと（星1）、書くために必要な線のなぞり書き等の運筆練習や、「し」や「つ」等の一筆で書ける簡単なひらがなの習得（星2）、ひらがなの50音やカタカナを書く練習（星3）等、段階的に学習が進められるよう工夫されている。 ○星2では、文字習得のポイントである「とめ、おれ、むすび」等がイラストとマッチしてイメージしやすい。 ○星3では、書く単元において手本がすぐ左に位置づけられており真似しやすい。 ○星4では、自己紹介の仕方、場面や相手に合わせた丁寧な言葉遣い、電話等の基本的な応対練習等、社会生活に必要な「話す・聞く」力を伸ばすための単元が構成されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ペーパーサートや劇などを通して、友達と一緒に活動する楽しさを味わわせ、物語の内容や自分の役割を理解させたりする等、広がりのある題材が選定されている。 ○誕生日カードや年賀状等、具体的な場面で伝えたいことを絵や文字で表現する力を養う題材が示されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手順や作り方の説明の言葉が簡潔でわかりやすくイラストも多いので、どのようなことをすればよいかイメージしやすく、見通しをもって学ぶことができる。 ○身近な食べ物や乗り物、季節を感じるカラフルなイラストやシルエットクイズなど想像を容易にし、教師に伝えようという意欲を喚起させるよう作られている。 <p>＜読書に親しむ態度を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章にリズムがあり、声に出して読んで楽しいつくりになっている。 ○楽しそうな挿絵が豊富にあり、読んでみたくなるようなつくりである。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒が直接書き込めるような工夫として、吹き出しや枠が設けられ活用しやすい。 ○文字と絵のマッチングの単元では、切り取り線で囲まれており、児童生徒の実態に応じて活用することが可能である。 ○小中学校の検定教科書と比較すると文字による情報は少ないが、その内容が厳選されているため、ポイントを押さえた指導を行うことができる。 ○ひらがな・カタカナ・ローマ字の一覧（星3の巻末）が掲載されている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○星1ではイラスト、星2ではひらがな、星3ではカタカナと漢字（漢字にはルビがふってある。）で表記されており、児童生徒の発達段階に応じて、時間をかけて丁寧に指導できるようになっている。 ○分かち書きされている。（星1～星3） ○言葉や絵が枠で囲まれており、情報のまとまりが認識しやすくなっている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生活経験の積み重ね、生活の広がりを考慮して、星1～星4まで学習指導要領の内容として定められた4つの段階に合った内容で構成されている。 ○児童生徒が親しみやすく、生活単元学習、作業学習、教科別の指導等と関連が図られており、役立つ題材が多く提供されている。短い題材が多く取り入れられていて、必要な機会に必要な展開の中で個に合わせて効果的に用いることができる。 ○写真や挿絵が色彩豊かで適所に掲載されており、児童生徒の興味・関心を高め、学習意欲を喚起したり、学習内容の理解を助け、イメージを豊かに広げたりするのにつながる。 ○「伝え合う力」を重視し、児童生徒と教師、児童生徒相互の会話を促す内容が多く取り入れられている。 ○総じて、知的障がいのある児童生徒にとって、国語の関心を高め、主体的な学習態度を育成し、生活を豊かにし、人との円滑なコミュニケーションができるよう「伝え合う力」を養い伸ばすことができる教科書となっている。 	

書名 項目	さんすう☆・さんすう☆☆（１）・さんすう☆☆ （２）・さんすう☆☆☆・数学☆☆☆☆	17 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○星1では、カードや透かしがあり、興味関心を持ちながら、マークの違い、形、大小や多少についての学習ができる。 ○星2、3では、教科書の表面に凹凸があり触覚も使いながら図形の学習や長さにお概念を学ぶことができる。 ○星2では、（1）と（2）で数の内容と量や形の内容と別れており、段階を考慮して取り組むことができる。 ○星3では、具体物からの操作をとおして理解できるよう配慮されている。題材の始めに図や絵で新しい学習内容を確認、その後式の意味を確認しやすい。 ○星3では、単元構成に一貫性があり、児童のつまづきに合わせて学習を進めることができる。また、書き込めるところが増えたことで振り返りしやすい。 ○星4では、系統性を考え、同じ計算は数が大きくなっても同じ流れで学習することができるため、既習内容を忘れる前に学習できるよさがある。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○星3、4のお金の学習で社会生活と結びつけて学習することができ、コインや紙幣、レシート等写真を用いていることから思考・判断を容易にすると思われる。 ○星4では、身近なものの量について具体物が的確で単位の表し方が理解しやすい。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○星1～星4まで、学習内容に応じて家庭生活や学校生活等の場面を切り取った具体的な事柄を題材としている。 ○図の色が工夫されていて、主体的に学べるように工夫されている。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○通常の検定教科書の段階を取り入れ、より特別支援学級の児童生徒の発達段階に合わせた内容の構成になっている。 ○時間、長さ、広さなどを実生活の中の出来事に関連付けて学ぶことができるようつくりされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○資料は、身近な内容、日常生活のことを絵や写真で取り上げている。 ○巻末資料には、切り取りやすいミシン目が入っている。 ○凹凸のある素材や透明フィルムを使うことで、手先の不器用な児童生徒への配慮もされている。 ○図や表は、書き込みやすいように色付けされていたり、大きなマスになっていたりとされている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文字は少なく、絵や数字が中心となって示されている。 ○漢字にはルビがふられている。 ○新しい記号、単位は太字で書かれており、読み方や書き順が示されている。また重要事項については、記号や単位などと一緒に囲みで強調されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領の内容にある4つの段階について、それぞれ合致した身近な題材を取り上げ、学習を進めていくことができる構成になっている。 ○児童生徒が興味・関心をもって取り組むことができるように、算数的活動を多く取り入れたり、教科書自体に仕掛けがあったりする構成になっている。 ○児童生徒を取り巻く事物には、数量や形などの属性があり、普段いろいろな数や形に囲まれて生活している。このような情報をできるだけ的確にとらえ効率的に処理していくことによって、より豊かでより有意義な生活を送ることができる。具体的な生活や体験的な活動を通して、数量的な感覚を豊かにし、児童生徒が興味・関心をもって数量や図形についての理解の必要性を感じ、数量的処理能力、図形的処理能力を高めることができる教科書となっている。 	

書名 項目	せいかつ☆・せいかつ☆☆・ せいかつ☆☆☆	2 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一日の流れや学校生活の約束、気をつけるべきことなどが大きくわかりやすい絵で視覚的に認識しやすいよう作られている。 ○日常生活の行動の一つ一つの動作について、スモールステップが考慮された絵や写真でわかりやすく示されている。 ○日常生活で困ったことが起きた時の対応の仕方や、決まりやマナーなども繰り返し扱われている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○買い物や交通安全など実生活で大切なことを学習する際、言葉や文章は最小限で、児童がイメージを膨らませやすい絵や写真が多用されている。 ○絵の人物の表情から想像力を働かせることができるよう細かく描かれている。 <p>＜学びに向かう力、人間性を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「○○しよう。」という課題に対して、一目で活動が想起でき、意欲が高まるような作りになっている。 ○集団生活に欠かせない、ルールや決まり、友達との関わり方等について、繰り返し学ぶことができるよう工夫されている。 <p>＜具体的な活動や体験をとおして気付きの質を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○季節ごとに体験活動が紹介されていて、季節の違いや移り変わりを感じることができるよう整理されている。 ○最新の写真が使われていて、教科書で知ったことと実生活の体験がリンクしやすいよう作られている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の施設や用具は同じものが繰り返し出てくるなど、大切なことが自然と身につくよう工夫されている。 ○巻末には、家庭や地域での生活体験につながる活動の絵や写真が数多く掲載されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○絵だけで構成されるページも含めて、余白部分を多く残すことで見やすいつくりとなっている。 ○短い言葉で簡潔にまとめられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○地震や災害を扱い、有事の行動について考えられるよう作られている。 ○総じて、知的障がいのある児童が自分自身、友達、自然、社会生活のよさと関わり方等について気づくことができ、生活がより豊かになるよう、児童自身が考え、表現できるようになるための基礎的な力を伸ばすことにつながる教科書になっている。 	

書名 項目	おんがく☆・おんがく☆☆・ おんがく☆☆☆・音楽☆☆☆☆・音楽☆☆☆☆☆	2 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽が流れている中で体を動かして楽しむために、児童生徒が親しみをもてる曲が選ばれており、リズムにあわせることができるように工夫されている。 ○音のでるおもちゃや打楽器を扱うことで、はじめは音を鳴らすだけだが、徐々にリズムに合わせて演奏することができるよう、既習を活かして学習できるような構成になっている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞ではやさしい色使いの絵を使い、曲の美しさを味わわせたり、楽しさを想像させたり、児童生徒の表現力を広げることができるようになっている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歌の一部を口ずさめるような繰り返しの多い曲から、独唱、斉唱、簡単な輪唱へつながるように構成されている。 ○はじめは、教師や友達といっしょに体を動かしたり、楽器を鳴らしたりする教材が多いが、徐々に一人で楽器を鳴らし表現する教材が増えていくよう工夫されている。 ○星1～3で扱う曲目は、児童の興味関心があること、情操を豊かにすること、情緒の安定を図ること、身体表現を活発にすること、自己表現活動ができること、創造的な音楽活動ができることを考慮した教材が選定されている。 <p>＜生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身近な道具や手作りの楽器など多様な楽器が紹介されており、音を出すことを楽しめるような工夫がされている。 ○児童生徒が興味・関心をもって取り組むことができるように、様々な楽器に触れたり、体で表現したりできる構成になっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○楽譜は鍵盤と同じ色で塗られており、文字が読めなかったり、楽譜を追うことが難しかったりする児童生徒にも取り組むことができるよう工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○挿絵は児童生徒が興味関心をもち、より意欲が高まるような豊かでやさしい色使いでわかりやすく大きく描かれている。楽器やその演奏の様子が写真でわかりやすく示されている。 ○文字は少なく、絵や写真で記されている。漢字はルビがふってある。 ○楽器やミュージカル、オペラなど、正しいイメージが必要なところは写真で、楽しいイメージが必要なところはやさしい色使いの絵で表記されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学年で構成されているのではなく、学習指導要領が示す内容で構成されていて、星の順番に学習することで、楽しみながら音楽を学ぶことができる構成になっている。 ○知的発達の遅れのある児童生徒には、情緒の安定、注意の集中、集団参加や協力の態度の育成を図ることは極めて重要であり、その目的を果たす上で音楽の役割は大きい。この教科書は、学習指導要領の目標・内容に合致した題材が取り上げられていて、音楽のイメージについてわかりやすい絵や簡潔な文章で示されている。音楽教育に期待される役割を十分担う教科書となっている。 	